（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）
（大正七年八月一日印刷發行）（毎月一回一日發行）

[illegible]

會長 島田三郎　副會長 安部磯雄

4—753

廓清

第八卷第八號

□人格的政治の要望……前衆議院議長 島田三郎
□廓清運動と法制……廓清會理事 油谷治郎七
□日本婦人の無力……法學博士 山脇玄
□人格と境遇……文學博士 井上哲次郎
□都會と村落の道德的比較……文學博士 吉田熊次
□盆踊奬勵論……新佛教幹事 高島米峰
□女大學新評論（六）……一條忠衛
□青年學生の誘惑……萬國學生青年會幹事 モット
□嫁入仕度敎育を難ず……慶大學長 鎌田榮吉
□酒と戰爭……醫學博士 大澤謙二
□大正六年度報告……廓清會理事 松宮彌平
懸賞論文發表
△貞操論……青山女學院 大橋房子
△男女の貞操……慶應大學 西本量一
□Where shall we drive the Prostitute? スペンサー

東京 廓清會本部 發行

新時代の芳香含嗽料

夏の爽快は

朝起に、食後に、午下の倦怠時に、外出後に、寝前に、夜の寝苦しい時に……

ライオン水歯磨を召しませ！

ライオン歯磨 ライオン石鹸 本舗 東京市本所區小手町 小林富次郎

支店 大阪東區[illegible]町二丁目 名古屋市桑名町四丁目 上海・天津・[illegible]・[illegible]

◉御注文の際は必ず雑誌『廓清』に依る旨御申添を乞ふ◉

産婦人科。小兒科

女醫 吉岡彌生
鷲山改め

△院長診療 宅診午前 往診午後

△醫員診察 午後

産室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京市麹町區飯田町四丁目三十一番地

東京至誠病院

電話番町二二五七番

山室軍平氏著

社會廓清論

特價七十錢 郵税八錢

グレゴリー氏著（邦譯）

歐洲諸國醜業公認制度廢止運動

特價税共 十錢

伊藤秀吉氏著

娼妓自由廢業案内

特價税共 十二錢

酒きらひになるくすり

どんな酒煙草のみでもからだに少しも害なく心からきらいになること妙 郵券二錢送れば説明書及大澤博士其他名士の禁酒禁煙論を進呈

藥を飲むと

禁酒丸

一週分一圓
二週分一圓九十錢
三週分二圓八十錢

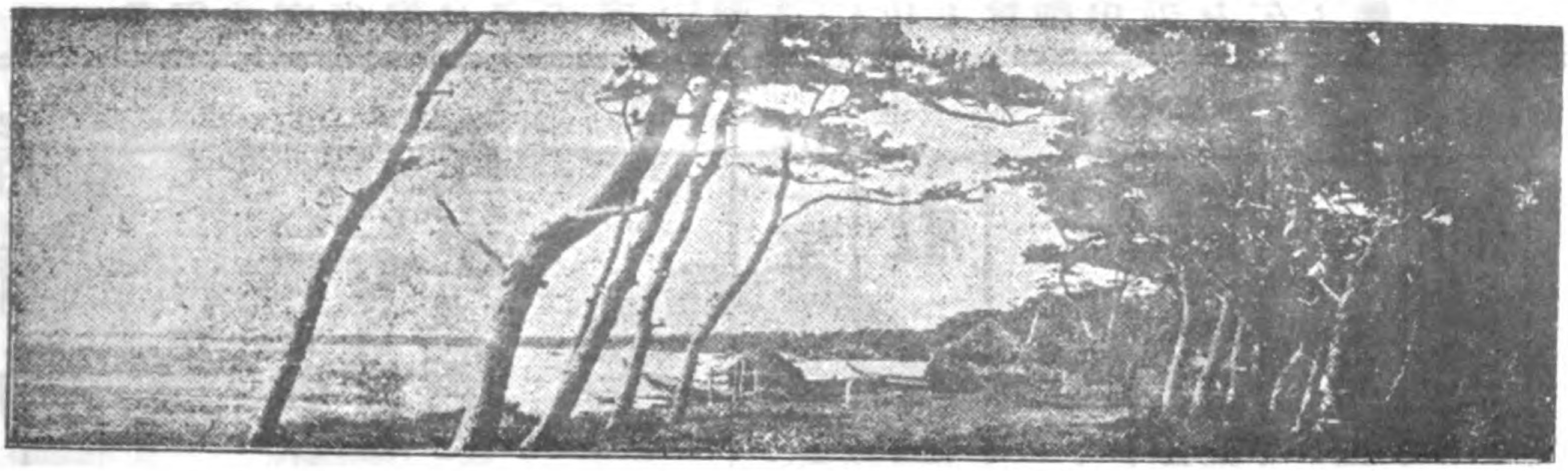
禁煙液

五拾錢
壹圓
壹圓五拾錢

煙草きらひになる藥

本舗 大阪靱南通二丁目 森田商店

電話土佐堀二六〇番
振替大阪三三一二番



人格的政治の時代

前衆議院議長
廓清會長　島田三郎

□羅馬は一日にして成らず

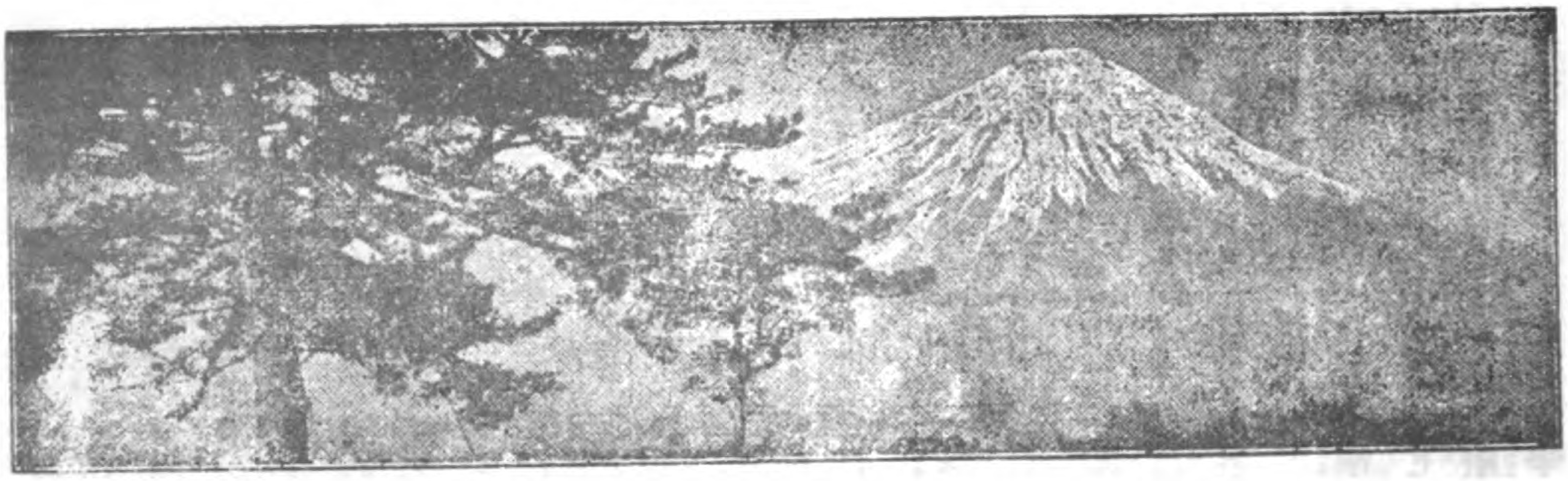
私は常に一國政治界の調子の高低は直ちにその國民の道德的公準を示すものであると信じて居る。併し乍ら羅馬は一日にしてならず、英國の政治界が信義と誠實によつて今日の如く高められたのについては、その由來するところなか〱深くして遠いものがある。

●ピットの名は英國政治史上に沒す可らざる輝きを留めて居るが、ピットをして斯くあらしめたものは、彼れの誠實であり、彼れの高潔なる人格である。ピットの誠實、ピットの高き人格を證明する話材は澤山あるが、就中彼れが金錢問題に對して如何に完全なる上下の信頼を博して居つたかを知るは東洋政治家にとつて好い戒めであらうと思ふ。

佛蘭西革命は遂に國王ルイ十六世までもギロチンの餌とするに至つたが、歐洲の諸國王は皆この國王の刑を非難して、英吉利、和蘭、西班牙、瑞典、獨逸諸國は一大同盟を作り革命佛蘭西に向つて戰を宣した。これが一七九二年で、ピットが英國の宰相になつてから（自一七八三年—至一八〇一年）第十年目の出來事である。次いで一七九九年には英吉利、墺太利、露西亞、土耳古、葡萄牙等よりなる第二回目の對佛列國同盟が結ばれて、この間ピットは盛んに奔走し、活動したものである。

然しその時の英吉利は、海軍力に於てこそ非常な優位を占めて居たが、陸軍力は到底現戰役に見る如くなる能はず、從つて兵を大陸に送り、これによつて同盟の實をあげることはできなかつたから、主として戰費を供給する方法で同盟軍を援けたものであつた。しかもこの戰費支給のことたるや、機に臨み變に應じて敏速に適宜の措置をとらねばならないのであるから、議會は只その總額について協贊を與へるのみで、その總額の範圍に於ける支出細目を擧げて宰相ピットの獨斷專行に任せられた。これ實に誘惑的地位である、しかもピットはこの間に處して全く清淨に彼れの名譽と人格を保持することができた。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY



當時、英國の政界に於けるピットの地位は多數國民の絶大なる親任を得て、稀れに見る強固な基礎に據り比較的範圍の廣い自由手腕を振ひ得る便宜を有して居た、即ち或時は言論集會に干渉し、或時は人身保護法の實行を停止したりするやうな非常手段もとることができたのである。斯の如きはもとより非常なるの時局に處する必要手段として避くべからざる事情があつたに相違ないけれども、若しピットの人格に對する國民の信任が薄かつたならば到底行はれないところである。しかしいかに人望ある政治家でも、既に政治家といふ以上は、反對黨の絶無を期し難い、勿論ピットも反對黨を持つて居た、而してこの反對黨はピットのかゝる英斷に對しては、横暴と呼び、專制と叫んで極力彼れの政策を攻撃したが、この反對黨の人々と雖も未だ曾つて一度も金錢に關する問題でピットを非難したことはなかつた。國民は一毫と雖もこの點でピットに疑を挿まなかつた。

斯るは誠に理由のあることで、既に御承知の通りピットは國家を愛人とし一生獨身生活で暮したが彼れも、もとより木石にあらず、一度は某婦人に熱烈なる戀をなし、その婦人も亦ピットに愛情を捧げてゐたが、この相愛の男女は遂に結婚するに至らなかつた。しかしその至らなかつた理由は甚だ悲壯である、即ちピットは、自分には國家の多事の今日家を營むべき時がない、のみならず家を營む餘財がない、故に又愛する貴女を幸福ならしなる準備がない、しかし苟くもこの準備なくして結婚するは愛人に對する誠でないといつて、自ら戀の破産者たることをその婦人に申出でたのである。ピットは又上院の反對を排して自己の政策を行ふために上院議員を增加する必要を生じ皇帝に奏して多くの議員を任命したことがある、此の時、前にはなした婦人の父親も當然上院議員に任命せらるべき資格に叶ふ人であつたが、彼れは戀人の父なる故を以て世間の誤解を招くことあるべきを惧れ、この人を推するのを避けた。

斯くの如くにして一七八三年より一八〇一年に至る十九年間の多事なる時局を擔當して、英國の名譽と國威を顯揚したこの大政治家は、一生娶らず、家はその姪の經營に任せて、自分は專ら國家の經營に勵み負債を殘して死んだほど清貧よくその身を持し、訓を後代に垂れたのである。英國政界の今日ある、誠に故ありといふべきではないか。

□人心の高下即政治の高下

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

要にも述べた通り、政治は單に政治として、人間生活の他の部面より全く遊離して單獨に發達し若くは墮落するものではない、人心の高下が卽政治の高下となつて現はれるのである、換言すれば、政治の高下は制度にあるにあらずして、之を運用する人の高下によつて定まる、而して茲に所謂人とは嘗に政府の當局者とか政黨の首領といふ如き政治家と名のつく狹い範圍の人を指すのでは勿論ない。もつと廣い意味での一般國民を指すのである。

英國の政治界に信義あり、常道ありて不斷に堅實なる發達進步を遂げつゝある所以は、嘗にその政治界がピットの如きロイド・ヂョーヂの如き誠實なる人によつて指導せられる爲めのみではない、實に英國民の多數がピットの如き、ロイド・ヂョーヂの如き、人格の優ぐれた政治家を尊重し、苟くも、人格の下劣なる者、若しくは人格の疑はしき者の政治界に跋扈するを許さないといふ社會的良心を持つて居るから、惡政乃至惡政治家の出現すべき虛隙がないのである。

既にこの社會的良心あり、故に一旦緩急ありて國家の名譽と獨立が殆に瀕する場合に際會すると、國民は敎へられずして深く自らの責任を自覺し、貴族も富豪も、學者も、青年も、勞働者も、婦人も各々その年齡の分に應じて或は血をそゝぎ、或は金を獻じて、奉公の誠を盡す、現に英國は此戰爭の初期に於ては、戰の準備甚だ疎略であつて、到底用意周到なりし獨逸の敵でないと思はれたが、英國民の自發的責任感念は着々として一切の組織を改め、驚くべき犧牲と、勇氣と忍耐とを以て、この戰爭の目的を達成すべく努めて居る、斯くの如き興奮、斯くの如き感激は所詮一人乃至數人の努力によつて挑發せられ得るものではない、平生から全國に瀰漫して居つたところの誠實を尊び信義を重んずる普遍的精神が、獨逸の虛僞を憎んで憤然として蹶起したのに外ならない。

これを、參戰の名義によつて金の融通をなし、その實、戰には參加しないで國內の擬戰に日も足らず、一信義の認むべきなく、誠意の發露皆無なる、支那の現狀と比較する時、私は東洋政治家に共通する大なる缺陷を思ふて慨然たらざるを得ない。

□社會進步の要素は人の誠實

支那の古聖人は、刑律を以て天下を治むるは末で、禮樂が治國の基であると敎へて居るが。この禮は秩序を保つ所以で樂は風俗を善くするの道である、卽ち先づ以て秩序を保ち、國風民俗を改め人心を正しくするによつて政治の基は定まるのである。刑律は唯この秩序を亂し、良俗を壞るものある場合にのみ役立れる。

而も政治家の言動に信義なきは、自ら社會の秩序を亂し、風俗を破つて亂國の基を拓くものである、斯の如くんば風俗の頹廢し、官紀の紊亂して、賄賂公行せられ、醜獄續出するは當然の成り行きである。しかしながら既にこの期に及んでから、刑律を行ふこといかに峻嚴なるも、源流濁りて末流の清透なる能はざると同様、到底社會の混濁を救ふ力はない。若し選擧取締法の完成に依賴して選擧の神聖を期すべしと信ずるものがあるなら、彼れは竟に、百年河清を待つ如き失望

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

に出會ふであらう、何となれば、國民の選擧に對する思想が今日以上に改善せられず、依然今の狀態を墨守するに於ては法の進むに從つて遁法の術も亦進み底止する處を知らないからである。

苟しくも人に誠實あり、社會の道德的監視嚴なれば、天網恢々、いかに疎なりと雖も敢て漏さないが、人に誠實なく、社會に道德的監視行はれずば、法網綿々、いかに密なりと雖も必ず漏らすに相違ない。單に政治といはず、社會百般の向上進步の要素は法や制度の完成に在るのではない、人が誠實を尊ぶことである、嘘僞は人間最大の恥辱なることを自覺するに在る。

□虛僞に對する東西の道德

私は最近英國の政界を騷がせた一つの重大なる事件を通じて、諸君が誠實を愛し嘘僞を惡む心持ちと、英國人が誠實を尊び嘘僞を卑める心持ちと何れが優り何れが劣れるやを比較考量せられむことを望む、その事件は諸君の既に熟知せらるゝ處で、卽ち最近まで英軍作戰部長の要職に在りしモーリス少將が、政府の發表する戰報は、戰況の眞相を傳へざる爲め、政府に對する軍隊間の信用薄らぎ、出征軍人の士氣爲めに沮喪せりと叫んで政府の戰局誤報を批難し前首相アスキス氏も亦この事件を下院に於て調査すべしと提議して遂に否決せられた事件である。而して予がこの事件に關し、諸君の注意を喚起したい點は事件そのものゝ內容よりも寧ろこの事件に對する英國民及び英國の政治家の態度についてゞある。

一體戰時中、味方の士氣を鼓舞し、國民を安心させる爲めに、戰時に多少の手加減を加へる位のことは、有りそうなことで、現に獨逸の戰報には屢々そうした誇張があり、獨逸の皇帝政治家及軍人の言動には常にそうした大法螺が伴つて居る、例のヒンデンブルグ將軍が四月の始め予は巴里に在るべしと豪語したのなどは最近に於ける法螺の最も雄なるものであるが、獨逸で、この法螺が大問題になつたといふ報知はいまだきかない。

獨逸戰報に虛僞と誇張の多いのに較ぶれば聯合軍の戰報は遙かに眞實に近いと思はれる、それにも拘はらずモーリス少將は政府の發表する戰報には嘘があると摘發した。この摘發は英國民の間に非常なセンセーションを惹起してロイド・ヂョージ內閣はこれが爲めに一時危機に會したほどであるが、斯くの如き大騷ぎを惹起した誤報とは一體いかに大袈裟なる黑白異同の報告かといふと『四月廿三日發布ボナー・ロー氏が英軍戰線の擴張はヴェルサイユ會議の審議を經たるものにあらずと聲明したるは事實にあらず、(一)首相ロイド・ヂョージ氏が四月九日下院に於ける陳述中千九百十八年一月現在の在佛英軍兵力は千九百十七年一月當時よりも優勢なりと言明し且メソポタミアに於ける英軍中、白人師團は僅に一個師團にして埃及パレスタイン方面に於ては僅三個師團なりと聲明したるも事實にあらず』といふに過ぎない。若しかゝる程度の嘘僞又は誤謬を支那や日本の政界に求めて、一々これを彈劾したらんには、百のモーリス將軍を以てするも尙足らないであらうと思はれるが『うそつき』といはれることを最大の

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

不名譽と心得て居る英國に於ては、これが内閣の、しかも極端に重大な時局を擔當しつゝある内閣の運命に關する大問題とせられる程、誠實が尊ばれ信義が重んせられて居るのである。

それはさて置きモーリス將軍から嘘僞の聲明をなしたりと指摘せられたボナー・ロー君は直ちに下院の演壇に立つて『本件は國務大臣の體面に關し、事態輕からざるを以て政府は陛下の裁判官二名を請ひて審問會を開き、國務大臣の議會に言説せる處の當否如何を審査し、成るべく速に之が結果を報告せしむる樣奏請に及びたり』と陳述して、自己の名譽と誠實を公の裁きに仰ぐ旨を宣言した。

殊に私が諸君の一考を煩はしたいと思ふことは、ロイド・ヂヨーヂ君が、モーリス將軍の批難に對して議會に於て一々詳細に反駁して辯明し、毫も驕慢に流れず、詭辯を弄せず諄々として理のある處を説明したあの誠實な態度に就いてゞある。日本の政府者は議員の質問に對して、いかに理解せしめようかとはせず、いかに胡魔化そうかとかゝつて居る。眞實を語らんとはせず、嘘僞を強いんとする、立憲政治となつて既に二十有八年、制度愈々備はつて運用これに伴はず、陋風天下に瀰漫して醜獄頻りに起る。しかもその由來する所は多岐あるにあらず、曰く利己主義の増長にあり、曰く誠實を迂遠なりとする陋風に在り、曰く男女道徳を輕侮し、待合政治の醜を悟らざるに在り、公娼制度を布いて國民に淫蕩を強い而も之を以て病毒の防波堤と思惟し、社會の繁榮策となす一大謬想に在る。

◇綾川御西山と語る◇

伊藤江南

▲先達て廓清會の總會の時、僕に面會を求めた偉丈夫がある。一見問ふ迄もなく幕內らしい力士であつた。名刺を見ると綾川五郎次としてある。して見ると此人が例の慶應と明治大學で相撲の師範をしてゐる所謂綾川先生だな、一時は關脇迄取つたが、此頃はどうしたか、大錦や栃木に淩駕されたはまだしも中軸以下の處に逍遙してゐる、盛衰の速かな彼等社會の狀態に一種無常の感迄起したのであつたが、彼の余に面會を求めた理由は、今日の此演說會のチラシを見て、非常に結構な演說だと思つて、自分も短時間でよいから、飛入演說をさしてくれといふにあつた。

▲いふ迄もなく力士社會といふものは、男女道德の最も腐敗した社會である。甚しきは黴毒をやらなければ力が出ない、瘡を吹切らないなどいふ迷信さへある程だから、さういふ仲間の人に我が純潔なる演壇を貸すといふ事は、容易に肯はるべきことでない。だから會長始め當時總會の晚餐會席中であつたから、一同に諮つたが、一應其趣旨を聞いてからにしやうといふ事になり、私はまた綾川君に此旨を通ずると、綾川君は「一體現代の弊は物質文明を偏重して精神的方面を蔑如したのにある。今日我國民の體格が維新以來衰へたのは、此の物質偏重の教育の生みし處である。私は此意味に於て今日の集會を尊重するものであるが、私の日はんとする處は、如何にして日本人の體格を向上せしむべきかである。

▲私は不肖ながら自彊術なるものを發明し、これによつて強健法を行ひ得る事を確信してゐる。自彊術は私にとつては生命であり宗教である。健全なる身體に健全なる思想が宿る、時間があらば私は裸體になつて其方法を極簡單だから實際に説明して見やうと思ふ」といふのであつた。

▲此旨を會議の席に通ずると、どうも充分廓清會の趣旨が分つてゐない樣だから、飛入は他日に讓り、今夕は緩り諸辯士の演說を聽く事にしたらばどうか、といふ事になり、やらして見たかつたが、高岩義さんが行て斷つてくれた。此時綾川關は一人友人を伴れてゐた。其友人といふのは彼が私に紹介した處によると力士界の覇王常陸山即ち出羽の海の甥である。

▲御西山といふ今度幕に這入つた人である。二人は最後迄熱心に演說を傾聽して行つたが、越えて二日目、御西山關から手紙が來て、我等の理想の不言實行である、御會の趣旨を贊し入會する、さて入會申込書に捺印したものを送つて來た。出羽ノ海部屋は比較的男女問題の矢釜しいといふ部屋で、場所中外泊を許さないといふ有樣、さればこそ今日東方全部を背負つてゐる程の豪勢を示してゐるが、其人の甥たる御西山君の入會によつて、此の力士會に「廓清」が這入つて行き所謂一味清風を龍攘虎鬪の間に見る事が出來るのは何よりの幸である。

廓清運動と法制（其二）

□□最近米國の趨勢□□

廓清會理事　油谷治郎七

□國民的優生學の運動

米國に於て近ごろ廓清運動の活氣を加へて來たのは、前に述べた如く、智識品性の下劣なる南歐及び東歐の移民が潮の如く寄せ來りて風紀を亂すもの多きを防止せやうとするのと女權擴張運動に伴ふ女子に對する社會的良心の覺醒し來れるに因ること多いが、且又、不純なる血液を退けて民族の純潔なる血液を保つにつとめ、以て强健優秀なる民族を築き上げんとする國民的優生學の運動に負ふところも少くはない。他方には又、醫學者の間に社會的任務の精神の勃興と共に、社會的衛生に關する興味の大に盛になれるあり、各種の方面より刺激を與へてゐる。更に之に加ふるに大戰に參加するに至りて、軍人の體力と士氣の强健を保持する必要に迫られて一層勢を增せるものと見るべきであらう。

其觀察の當否は兎も角も、宣戰後、陸海軍を始め米國諸州に於て廓清問題に關する立法的及び行政的の活動は實に著しいものである、陸海軍當局が取らんとし又取りつゝある方針と、社會人心の動きつゝある趨勢の大略は已に之を報じた（廓清六卷一月號を見よ）更に其後の消息を述べやう。

□各州の花柳病撲滅運動

千九百十七年五月十八日は實に米國の社會的法制史に於て特筆すべき時である。此日かの陸海軍營所に近き五哩以内の地に全く娼婦の存在を禁じて、誘惑物を一掃する法律を布けるのみでない。米國議會は此日「セレクチーブ・コンスクリプション法」なるものを通過し、其第十二條と第十三條とに於て、大統領及び陸海軍卿に、遊娼を防止し且つ軍隊に酒精飲料を販賣するを禁ずる必要なりと認むる凡ての手段を運らす權能を與へたり、是に於て大統領及陸海軍卿は國防委員のうちの特別委員と力を協せ、嚴令を布いて陸海軍兵營に近き都市の紅燈區域を撲滅したのみでなく、軍人間に性的教育の機關を完備し、或は病患者たる兵士の救護方法を講ずるなど着々として其功を收めてゐる、而も軍人間にのみ豫防と救治の方法を盡すも、一般市民の間に廓清の實を擧げざる限り、其市民より出でゝ軍人たるものゝ全く此病毒より脫することを望むことを得べからず。そこで本年一月四日各州知事に、同五日各州衞生局に命を發して、中央政府の意を明にし其協力を促した。各州政府の手を下すべき新しき社會的制度と事業

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

は左の如し。

一、各州衛生局内に花柳病課を新設すること。

二、各州の主要なる都市は、遊娼を禁厭し、娼婦は拘引して之を檢査し、其病毒あるものは公立留置場若くは病院に隔離することゝし之が爲に設備を具ふこと。

三、病毒を有せざる娼婦は自活し得る仕事を教ゆる公設機關に托し、一切低能の娼婦は監視付きの保護に托するやうにすること。

四、各州内凡ての醫師に令して黴毒と淋毒に感染せるものを診斷せる場合には悉く之を州の花柳病課に屆出でしめ又公衆衛生のため必要なりと認むるときは、凡て其患者を強制的に組織的に診療せしむる手段を具ふること。

五、少くも主要なる都市には花柳病診療所と相談所とを設くること。

六、州内理髪店及び青年會館内及び旅館と停車場の男子用便所及び其他男子の最も目に觸るゝところに、花柳病に關する注意書を貼付せしめ、及び此病毒の豫防と治療に關する小冊子の配布につとむること。

七、州の衛生局の主催の下に、商工青年を始め青年男女の團體のために、活動寫眞を用ゐて、性的衛生教育の講演をなすこと。

八、花柳病の醫療廣告及び之に關する賣藥の販賣を禁止すること。

□丁抹に於ける良績の踏襲

社會衛生的政策として實に注目すべきものである。而して是れ殆んど丁抹に於て實驗し良績を擧げたるところである。本年五月までに衛生局内に花柳病課を設置せるは、二十五州にして、花柳病を傳染病として取扱ひ醫師より屆出をなすべきことゝなれるは三十二州に上つてゐる、而して是等の八綱に應じて、細目をつくり已に實施するもの、マサチユセッツ、ミネソタ、ミシガン、ヴアモント、ワシントン等の諸州を始め十餘州に及ぶ、其全國に普く實施するまでには尚多少の時日を要するであらうが、今日の勢を以て察すれば其實現を見るは遠くあるまい。

會告

例年の通り九月號を休刊し、十月倍大號を發行す。

大正七年八月　廓清會編輯局

昨年の倍大號は『家族制度問題號』として最も時弊に適切なる問題を、各方面より論議し、非常なる刺激と歡迎を社會に與へたるが、本年は如何なる新裝を凝して諸君の面前に表れ來るか乞ふ刮目して待たれよ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

女大學新評論（六）

「男女道德論」著者 一條忠衛

第九章 批判

一 言語を愼みて多くすべからず。假にも人を誹り僞を云ふべからず、人の誹を聞ことあらば、心に納て人に傳へ語べからず、譏を言傳ふるより親類にも間惡敷なり、家の内治らず。

これは第四章の七去の第六項を更に詳述して、多言の不德を責めたものに過ぎない。寡言は男女共に必要であつて、人を誹謗することは之れも男女共に戒律である。然るに女大學は之れを女子に強要して、七法の一に加へ、更に之れを九章に力說して數十言を費したのは、飽く迄も女子の口を緘して言論の自由を束縛し男子の都合の能い言論界を作らんとするものである。その不見識なることは今更批評の言葉もないのである。

第十章 批判

一 女は常に心遣ひして其身を堅く謹み護べし。朝早く起き、夜は遲く、晝は寢ずして、家の内のことに心を用ひ、織縫績緝怠べからず。又茶酒抔多く飮べからず。歌舞伎、小唄、淨瑠璃杯の淫たることを見聽べからず。宮寺抔都て人の多く集まる所へ四十歲より内は餘り行くべからず。

此の章は女子の個性に屬する身の嗜を說き、健實、謹厚、規律、秩序、節制の諸德に亙つて戒めた教訓である。五項に分れて居るが「女は常に心遣ひして其身を堅く謹み護べし。」と云ふのが其の總則になつて居る。人は男女を問はず、其の身を護るに健實であつて、謹厚でなければならない。規律なく節制なく、遊惰にして放逸なる生活は、萬人の均しく憎む所である。それで人は先づ朝夕の起居を初めとして、其の日の業務に關しては秩序の整然たる習慣の中に生活しなければならない。又た朝夕の飮食に就いては節制を守り、暴飮暴食を愼み、身體の健康を期さねばならない、又た娛樂遊藝に關しては樂んで淫せず哀んで傷かざるを程度として、其の中庸を採るに努めなければならない。妄に見物遊山に押し步いて流連荒妄の行に墮するは男女の別なく共に健實の行なく、節制の德なく、人格の下品なる者と云はなければ成らない。女大學は第十三章に於て此等の諸德に關して女子に教戒を垂れたことは甚だ悅ばしいことである。併し乍ら女大學は果して此の健實、謹厚、規律、秩序、節制の諸德を個人に關する道德として男女平等に取扱つて居るか何うか。此等の諸德をさながら女子の個性的道德として、女子にのみ多く賦課した傾向は無いか。即ち女大學が貞順の德を女子にのみ強要した筆

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

法を以て、今又これ等の諸德をも女子にのみ負擔させやうとする不公平の形跡は無いか。左に之を逐一審議して男女道德の眞魚板に載せて解剖して見よう。

□　□　□　□

先づ第二項には「朝早く起き、夜は遲く、晝は寢ず、家の内のことに心を用ひ、織績紡績怠るべからず。」と云ふ敎訓がある。此れは女大學の記者が宋若昭の「女論語」などから輸入したものであらう。古來何れの國民でも勤勉の敎訓を掲げる時には、朝夕の早晏に及ばない者はない。それで詩經にも「晝は爾于て茅かれ。宵は爾索綯へ。亟に其れ屋に乘れ。其れ始めて百穀を播す。」とあつて、夫婦は倶に相勵まして、朝早く起きて家業に從事して居たのである。然るに宋明の時代になると社會の形勢は一變して、妻だけが朝早く起き、夜は遲く寢ると云ふ風俗を生じた。其の代表的事例として宋若昭と云ふ婦人が書いた「女論語」の早起章を擧げることが出來る。少し原文が六ケ敷いから之を邦文に直譯して見れば下の如くになる。

『凡そ女子となり、習うて以て常と爲す事は、五更鷄唱へて起つて衣裳を著く。盥嗽已に了れば、隨ひて梳粧し、柴を揀り火を燒き、早く厨房に下り、鍋を磨き鑊を洗ひ、水を煮湯を煮る。家の豐儉に隨ひて、蒸煮食を營し、蔬菜を安排し、鼓を炮き韲を舂き、時に隨うて料を下し、甜淡馨香あり、碗碟を整齊し、鋪設分張し、三飧飯食、朝暮相當る。晨を侵して早起すれば、百事妨なし、學ぶなかれ、懶婦の思量を解せず、黃昏一覺して、直ちに天光に至り、日高きこと三丈、猶ほ未だ床を離れず、起來已に晏く、慚惶し、未だ曾て梳洗せず、突に厨房に入り、容顏齷齪、手足慌忙、茶を煎じ飯を煮て、時常に及ばざるを、又一等あり、鋪饌爭ひ嘗め、未だ曾て炮饌せず。已に偸み藏し、醜、郷里に呈はれ、辱、爺孃に及び、人に傳說せらる。豈に羞惶せざらんや。』早起を奬勵した敎訓としては洵に間然する所の無いもので、偖に懶婦をして羞惶せしむるに足る名文である。けれども此の早起を啻に女子の常習と看做して、一言半句も男子に言及しなかつたことは、誠に遺憾の限として恨まざるを得ない。勿論、妻が早起を以て自己の本務と爲し、斯うして家政の萬端を働いて呉れて、夫が日高きこと三丈に及んで猶ほ床を離れぬも意に介せぬ心は、審に感謝に堪えぬ次第ではあるが、唯だ其れでは夫は一の懶夫とならざるを得まい。早起が身體の健康の上に又は職業の秩序の爲めに、一の規律的生活であるとするならば、男子に取つても同じく敎戒でなければならぬ筈である。夫婦が東天明けて迄も閨房に潛り込んで居るなどは節制の德にも反して、大に恥づべき行爲である。だから妻だけを未明から敲き起して置いて、自分は鼾聲を四隣に轟かして寢て居り、日高きこと五丈に及んで初めて起きて朝食を命じ、料理の鹽梅を惡評し、食事の進まぬことを憤り、妻を罵倒して不機嫌斜ならざるが如きは、大の横着者と稱すべきである。然るに女論語では斯うした男子の我儘に對して、之れを男子の常習として傍觀した譯でも無からうけれども、早起を男女相務的に規定しないで、單に女子の常習としたのであるから、遂に朝寢は男子の常習とならざるを得ない缺陷を與へたのである。殊に宋明は男女の道德面に於ける男尊女卑の極端なる習俗の時代に於ける敎訓であるから、暗默の間に規定した男子の我儘横着を許したものに爲つて居る。隨つて夜も夫は早く寢て、妻は遲く寢ると云ふことが敎訓に化したのである。而も姑の寢沈むのを待つて居て、然る後に遲れて寢なければならぬ掟がある。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ふに、大半は男子の飲酒に由來するのである。女子は禁酒しても、男子が飲酒すれば、其の家庭は飲酒の家庭であり、其の社會は飲酒の社會である。隨つて女子の禁酒は無意味となり、單に飲まなかつた丈が損に歸したと云ふに過ぎないので、毫も國民的美德として誇るに足る性質が無いのである。だから古來より聖人君子には普く戒酒の敎があり、最近に至つては世界に通じて禁酒運動が猛烈になつて來たのである。殊に西洋諸國の婦人運動者に於ては、禁酒運動に成功して、既に禁酒令を見るに至つた社會すらある。

□□□□

然るに我國の婦人等は禁酒の思想に於て歷史的の美風を有し、實に先覺者の地位に居るが男子に禁酒を强行させる智惠袋を有たない一事からして因果觀面さして花柳病に惱み、アルコール漬の子種を宿して劣惡な子女を生み、不良の系孫を殘しつゝあるのである。女子は此の際大に猛省して、先づ古來の因循を去り姑息の手段を改め、身を社會の陣頭に立てゝ、或は道德上より或は敎育上より、或は政治上より、男子の飲酒を蛇蝎の如く憎み、苟も瓶子を執つて酌をしたり手を出して盃を受けたりするやうな行爲は、一切女道の大恥辱と心得て、縱令自分の夫であつても死を以て爭はねばならぬ。女子が酌をしたり盃を受けたりすることは、實に女性一同の社會的地位を淪落させ、美人薄命の最大原因であることを膽に銘じて忘れぬやうにしたいものである。隨つて我が社會の俗間に於て御酒と稱して神前に供するなどは、蠻風の甚だしいものであることを知らねばならない。二十世紀の今日に於て不善諸惡の根本たる酒を要求する殺潰の神があるならば、斯かる世界の大勢を知らざる惡德の神は、須らく之れを溝壑に棄て、河川に投じ、其の社は撤いて斷さすべきである。

□□□□

次に第四項には『歌舞伎、小唄、淨瑠璃の淫れたることを見聽べからず。』といふ敎訓がある。歌舞伎と云ふのは今日の芝居のことで、藝術家の謂ゆる演劇である。小唄と云ふのは三味線に合せてうたふ簡單な俗謠を云ふのであるが、此の女大學を出版してから以後に流行し出した常盤津、淸元、長唄、新內などの稍や程度の高い俗謠も女大學の作者から見れば無論この小唄の中に總括される。それから淨瑠璃と云ふのは今日の義太夫のことである。そして此の條項は極めて概括的のものであるから、講談、落語、浪花節、活動寫眞、舞踏なども勿論這入ることになる。扨て女大學は此等のものを一切見たり聽いたりしてはならぬと云ふ趣意であれば、此の敎訓は果して正しいか何うか。先づ此等のものは何ういふ性質のものであるかと云ふに、今日の謂ゆる藝術に當り、或は文藝たり、演劇たり、音樂たり、舞踏たるものである。然るに此等の藝術は今日の社會に於ては審美的生活として、吾々に許されて居る。然るに女大學が之れを禁制したのは、何う云ふ譯であるかと云ふに、作者は今より百五十年前の江戸時代の社會から觀察したのであるから、其處には尤な道理があつた、當時の歌舞伎なるものは謂ゆる河原乞食であつて、敎育ある淑女の近づき見るべきものでは無かつた。又當時の小唄なるものは遊女や雲助などの謠ふものであつて、武士の社會では男子には謠曲があり女子には琴があつた。又た當時の淨瑠璃なるものは縱令近松や海音が書いたにせよ、武士階級に屬する儒學者流から觀れば、彼等は今日の三文々士に價するもので、其の作物は農工商の俗間に迎合される遊蕩文藝に過ぎなかつたので、鄭聲の雅樂を壞るものと爲されて、到底女子敎育になど差許さるべき性質のものでは無かつた。けれども此の儒敎の藝術觀を採り容

□□□□

女大學は此の支那思想を輸入して、之れを當代の新思想として、第十章の第二項に意氣揚々として揭げたのである。其の不見識にして拜外の奴となり、妻の社會的地位を沒落させた罪は到底免れぬものである。殊に朝は五更より起きて終日働き通して、織縫績紺怠ることなく、身體の疲れて居るにも拘らず、夜業まで仰せ付けられ、枯れ木のやうに睡る必要は無い姑は何時迄も起きて居り、漸く深更に及んで床に入るを待つて、今度は漸くの思で自分の着物などを打ち擴げて縫ふといふ有樣で、之れを每日反復するのであるから、睡眠不足となり、神經衰弱を招くは自然の勢である。夫は晝間でも意のまゝにごろり〳〵晝寢も出來るのであるが、妻はこれを絕對に禁じられて居るから此の方法に依つて睡眠の不足を補ふことすら出來ない。此の晝寢を男子に許して女子に禁じたなどは、全く男子の我儘を露骨に現はしたより外に、何の意味も無く何の道理も無い規定である。女子と雖も人間である以上は、晝だつて睡くないと云ふ道理は無からう。たゞ八時間の眠睡時間を原則として、夜は早く寢て朝は早く起きると云ふ衛生の道を守れば、男女を問はず晝寢の必要は無いことに爲つて居る。けれども何か非常に疲れた場合ならば特別であるから、男女共通に晝寢を許すの掟が設けられねばならない、之れを如何なる場合にも獨り女子にのみ禁ずると云ふ法は無いので實に以ての外の謬である。

□□□□

次に第三項には、『又茶酒杯多く飲むべからず』といふ教訓がある。是れは非常に善い教訓であつて、寧ろ『多く飲むべからず』と云ふよりも『飲むべからず』ともう一息の奮發を要求したかつた。殊に酒に於て之れを翹望するのである。爾來日本の女子は支那の女子と同樣に、溫和從順を旨として敎育された爲めに、女子が酒を飲んで亂することを嫌はれた。我が國に於ける現在の一般女子が、酒を飲まないと云ふことは非常な美德で、女性として誇るに足る善良な習慣である。藝娼妓、酌婦、妾、又は老婆の外を除いては、若い娘や夫人等は決して酒を飲まない、酒を薦められるとは羞恥の一として考へて居る。假令、臺所では客の殘した德利を喇叭呑にする女中であつても、數人列座の前では盃を受けることを容易に肯んじ無いと云ふのは、兎に角非常に善い習慣であつて其れが圖らずも絕對的な禁酒の有樣を以て、强烈なる道德的觀念と成つて居ることは、實に感謝に堪えぬ次第である。現在の日本の女子に對して第一に敬意を表さねばならぬ點は此の禁酒の美德であると思ふ。けれども女子は此の美德を國民的美德として自慢するならば、其れは餘りに早計であり、又た誇張である。何となれば、女子の中にも藝娼妓、酌婦、妾などの輩は朝夕酒杯を手にして、狂亂醜體を演じて居る。又た此等の醜業婦を杯盤の間に斡旋せしめ、卑猥なる歌舞音曲を奏で、肉慾獸行を恣にして居る遊冶郎の群は、男子の大半を占めて居る。男女の謹愼を奪ふために敢て酒を飲み、男女の禮節を取り去るために敢て酩酊して無禮講と爲すのである。嘗ては眞面目と稱せられ、秀才と歌はれた男子が、花柳の巷に溺れて無用の代物となるは、全く酒が取持つた結果である。斯くて國家壯丁の大半は花柳病を受けて家庭に歸り、忽ちにして內君に傳へて共に惡病に惱み、劣弱畸形の豚兒を產出するは言ふに及ばず、美人を以て任ぜる妻の鼻は虧けて半月の如く、髮は拔けて荒野の如く、首は曲つて雁の如く、腰は冷えて氷の柱の如く、五臟は腐れて用を爲さず、眞に見る影も無き姿と爲るのである。その上、夫は醉狂して妻に當り、容貌の醜惡を罵り、家庭の什物を破碎し、喚呼して四隣を驚かし、兼ての妾を入れて糟糠の妻を追出すと云ふ有樣になる、是れは何の爲めであるかと云

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

れた女大學の藝術觀なるものは、固より現代に行はれる諸種の藝術を批判する標準とは爲らない。

□　□　□　□

今日我が國に行はれて居る文藝、演劇、音樂、舞踏等を批評して之れを一般社會の女子敎育に容れようとする場合には、先づ今日の道德觀又は敎育觀に立脚した藝術的批判で無ければならない。さうすると先づ今日坊間に行はれて居る遊蕩文藝に屬する一切の作物を讀むことは、女子に絕對に禁じなければならない。それから此等を實演する惡芝居を觀ることも禁じなければならない。隨つて常磐津、淸元、長唄、新内、其他の俗謠に存する淫猥なる歌詞はこれを聽くことも歌ふことも避けねばならぬが、其の健全なるものは固より聽くも歌ふも各人の隨意である。殊に此等の音樂には舞踏も這入るので、大なる長所も有るから、其健全なるものは和樂として大に發達させて能いが、其の淫猥なる歌詞と舞踏とを入れたものに至つては一切これを嚴禁しなければならない。就中、花柳界に行はるものに至つては好んで淫猥なるものを選び、遊野郎を恍惚たらしめ狂亂せしめる仕掛に出來て居るのであるから家庭の好君子が一度この巷に足を入れゝば再びこれを見んと欲し、「三度これを聽かんと欲し、年俸財産の一切を失つても或る若干の女を自由にせんと焦慮するやうになる。是れは何の爲めであるかと云ふに、申す迄も無く斯かる遊野郎は人格の修養が未だ足らぬ上に、低級なる藝術觀を懷いて居ることが、其の第一の原因である。けれども第二の原因は花柳界の藝妓等は遊藝に長じ交際外交に適して居るが爲めに、男子の心を反らすこと無く、頓智輕妙の才を振ふ爲めに、歌舞談合の間に男子の娛樂心を滿足させ、男子の性的欲望を實現するに最も都合の能い對象となり、自分の妻よりも深い程度に於て性的欲望の滿足を與へられるからである。

□　□　□　□

其の結果として妻を捨て、財産を捨て、心中しても厭はぬ情勢となり、汚名を天下に曝し、醜骸を山野の雨風に打たるゝと雖も辭さない心になる。細君等から見れば、藝妓が顏が綺麗で、化粧が上手で、衣服髮飾の美に全日を費し得る境遇に居る爲めだと云ふかも知れないが、それは眞に邪な嫉妬に過ぎない。容色が幾ら勝れて金銀の衣を纏ふて居ても、無藝無能でもつて男子の藝術心や社交心を滿足させる手腕が無く、人の感情を反らしてばかり居り、無骨にして輕妙婉轉の才を有して居ない女子では、如何に遊野郎と雖もこれと心中しようとする精神までには、逆上し無いであらう。殊に男女の性的關係は一種の社交であつて、生きたる藝術の精華であるから、人格的戀愛には必ず社交的なローマンスが備はる譯である。家庭に娛樂が必要であると云ふのも、夫をして家庭の君子たらしむるは、妻の才幹が必要であると云ふのも、皆なこの邊の消息を傳へた忠言である。今日の藝妓は家庭の夫人に比すれば、固より學問も地位も無い一個の醜業婦に過ぎないけれども、藝術と社交に於ては數段上座の才媛であることを許さなければならぬ。さうして多くの男子が花柳の巷に溺るゝの第一には品性の墮落からであるが、第二には此の才媛に魅せらるゝが、原因であることを、家庭の夫人は篤と記憶しなければならない。さうして單に自己の夫を奪ふたる意味の藝妓を嫉妬するに停まらず、進んで其の才媛を妬み、彼等の藝的術修養と社交的手腕とを大に猜むべきである。然らば其の結果は何うなるかと云ふに、當方よりも進んで藝術的修養を爲し、彼等よりも以上に高尚にして趣旨深き娛樂を以て家庭を賑はし、又た社交的手腕を練つて、彼等よりも以上に頓智輕妙を極めた才女となり、夫の性的欲望の理想的對象となり、彼をして根本的に滿足せしめ、彼をして妻の前に拜跪せしむべきである。さうして政治的には婦人參政權を得て、法律の改正に因つて如何

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

様にも醜業婦の一群に對して壓迫を加へて行くべきである。此の兩道から家庭の敵を攻めなければ、堅城鐵壁のやうな花柳界の一壘を拔き取ることが出來ないばかりで無く、却つて敵に逆襲されて家庭の門前に逼られ、四面楚歌の中に裏木戸から落ちのび、此のまゝ實家に歸るか三途の川を渉るか、淪落の岐路に踏み迷ふことになる。女子は克く〳〵此の邊の事理を明にして、不覺の禍を招かぬことが肝腎である。

□、□□□

今日の日本の社會では夫の方が妻よりも藝術的であり社交的である。家庭で娛樂が無くとも社交が無くとも滿足して居る妻は多いけれども、之れに無聊を感ずる夫は頗る多い。是れは日本の女子が過去の社會に於て全くこの女大學流の無風流な敎育を受け、木偶の坊のやうに育て上げられ、單に世話女房と子供製造器として取扱はれて來た爲めである。その結果今日では古來から自由に解放されて育つて來た花柳界の一群の爲めに、娛樂機關と社交機關とをすつかり褫奪されて、遂に家庭の和樂は斷たれ、家々に康哉の歌が無くなつた。これは過去の社會に於ては西洋に於ても同一であつたが、西洋婦人は自覺の結果として茲に見るところあり、大に修養の結果として家庭の藝術味と社交味とを深くし、多くの家庭は互に此等の娛樂を交換するに及んで、醜業婦の一群は次第に驅逐せられ、娛樂機關と社交機關とを再び家庭に奪還することが出來て、彼等醜業婦は今は全く純然たる淫賣婦と墮落れ、日本の藝妓とはその趣を異にして居る。日本の藝妓は家庭の要求する男子の娛樂を供給する女になつて居るので、公會の席上は申すに及ばず家庭にも出入を許され、花柳界は家庭の樂屋のやうに爲つて居り、家庭の世話女房と花柳界の藝妓とは一女子が家庭に於て務むべき性的行爲を等分して行つて居るこゝに一夫多妻の社會的要求が存するので、全く家庭の妻が一人前の婦人としての力量なく、總に藝妓に依つて自己の女性的不足を補つて貰つて居る形である。實に恥づかしいことの限と云ふべきである。藝妓と云ふ言葉が世界語になつて、各國の辭書の中に加へられたのも、斯うした不思議な職業か世にも有れば有るものだからである。女大學が家庭の女子に健實謹厚の德を敎へ込まんが爲めに、藝術を禁じて藝無しにして、一箇の世話女房に歸した結果は、却つて後世を過ることゝなり、終に角を撓めて牛を殺すの損害を招いた。

□□□□

次に第五項に『宮寺抔都て人の多く集る所へ四十歲より内は餘り行べからず。』と云ふ敎訓がある。此の敎訓の目的は若い女子が公衆の會同する集會に出席することを嚴禁するに在るので、女子は『家の内のことに心を用ふ』と云ふ根本的敎訓に足並を揃へんが爲めである。此の思想は儒敎の哲學觀に濫觴するので、易經から出て居る。易の下經には家人と云ふ卦があつて、其の彖傳には、『女正位乎內。男正位乎外。男女正。天地之大義也。』と註せられて、天に位する夫は家の外を治め、地に位する妻は家の内を治めるのが、一家の法則であるぞと云ふのである。併し乍らこれは天地、陰陽、剛柔、內外の思想を男女に配して、無理にこじ付けた哲學論であつて、そこに何等の男女道德的原理が無く、全く荒唐無稽な說である。男女を陰陽の兩性に配するは至極正しいが、之れを天地、剛柔、內外の觀念に配して男女問題を論ずるなどは、獨斷であつて、妄誕の甚だしいものである。此の點だけは孔子と雖も吾々が斷々乎として反對し、鼓を鳴らして責める點である。男女は生殖的分業の必要によつて、夫は妻子の營養攝取の爲めに職業に從事し、妻は哺育家事に從事するは當然の事務であるが、之れは絕對的のものでは無い。或る事情の爲めに、夫は營養攝取が不充分な時には、妻も職業を求めて營養攝取に從事するのが、女性の個性的職分である。また人間は男女を問はず、生殖的個性の生活を根柢とする者であるけれ

ども、其れを完成する爲めに更に精神的個性の生活をも爲さなければならない。男女生活はこの二方面から進行して、始めて人格を實現し得るのである。

□□□□

それで妻の人格的活動の範圍を一個の家といふ建物に限つて、門から内を家庭と解し、妻に生殖的生活のみを天職として命ずるなどは、全く支那流の内外哲學の影響に過ぎないのである、夫が出て職業に從事するは、男子の生殖的個性としての家庭的生活の表現であつて、又た男子の精神的個性としての生活でもある。之れと同じく妻が出て職業に從事するは女子の生殖的個性としての家庭的生活の表現であつて、又た同時に女子の精神的個性としての生活である。勿論妻の精神的個性としての生活は、門から内の建物に居ても實現し得るのであるが、又は門から外へ出て行つて實現しても差支ないのである。その間に内外の禁制の在るべき條理が無い。況して職業といふものは男女の別なく。人格を實現する手段なのである。卽ち至善を追求して人生の目的を達する手段の一つである。育兒家事のみを妻の天職と解して、學校教育、社會改良、學術研究、文藝美術、殖産工業に携はることを職業外に一蹴し去らんとすることは、全く俗論といふの外は無い、又これを謹聽して盲從するが如きは全く迷信と云ふの外は無い、而も女大學はこの支那流の内外剛柔の哲學を輸入して女子教育の大本と爲し、女子は家の内に居て家政を勤め、四十以前は斷じて公衆の會同する集會に臨んではならぬと規定したのである。

□□□□

さうして現行警察法規はこの女子の習慣を善良なる風俗と看做し、公の秩序と解して、治安警察法第五條第四項に於て、『女子は公衆を會同する政談集會に會同し若くは其發起人たるを得ず』と禁制されたのである。憲法に於ては縱令西洋流に男女の別なく集會の自由を與へられ、議會の傍聽すら許されて居ても、特別法規に依つて飽くまでも家庭に於ける一個の世話女房として押へ付けられ、文部省の良妻賢母主義の裏書を張り付けて、國家、の公事には口を入れることを一切禁じられて居る。それで現在の日本女子は政治書類を讀み新聞記事を讀み、選擧場裡に運動し、議會を傍聽し、請願を爲し得る權利を有して居ながら、政談集會を爲して會同し、選擧權取得、學校教育、婦人矯風、兒童保護、都市衞生、食料品改良などの國家問題に携はつて運動決議する權利が無いのである。これは過去の社會では西洋諸國も同一であつて、家族制度に於ける男尊女卑の遺習と專制政治に於ける官尊民卑の思想に由來したのであるが、個人の覺醒の結果として自由平等の觀念に由つて一夫一婦の家庭となり民衆の法治的生活となつた爲めに、女子も經濟的には職業に從事し、政治的では選擧權を得たのである。然るに日本の現在社會に於ては男尊女卑であつて官尊民卑であり、自由平等の思想でなく、且つ一夫多妻の家族制度であり、且つ非立憲にして男子と雖も法治的生活の何ものであるかを知らぬ有樣であり、その上儒教によつて支那流の内外哲學の思想が浸潤して更に女大學の教訓が一般の遺傳性となつて居るから、手も足も附けられぬ狀態である。けれども斯かる不健全な社會では到底歐米諸國の男女社會と步調を合せて文明の進展を期することは覺束ないのであるから思慮ある女子は先頭に立つて舊來の陋習を破り、自由を天地に求め平等を四方に探し、大に外出して、或は職業に就き、或は社會問題に奔走して、男女内外の惡思想を一掃すべき秋である。

一條忠衞先生著
男女道德論
特價一圓二十錢稅共

學生の誘惑（二）

萬國學生青年會同盟幹事　ジヨン、アール、モツト

□不品行と成功との關係

第一に不品行な人は品行の正しい人のやうに成功する事の出來ない理由は、不品行は其の人の理想を低くする、即ち其人が生涯の目的として目指す所のものを卑くするのである。私の逢ひました青年の中に隨分不品行な人もあつたが、夫等の人々の理想、即ち如何なる事を目的として居るかと云ふことを聞いて見ると、品行正しき人の目的に比べては、恰も水田と富士山とのやうに違ひ、從つてぬかるみに目をくばつて居る者と、天の一方に星影を望んで居る者と同じやうに成功する道理はないのである。

第二に不品行なる人が品行の正しかつたやうに成功の出來ないと云ふ理由は、其人の大望を失はしむるからである。即ち良い意味に於ける野心所謂大望を打碎いてしまうのである。自分の身は尤も高美なるものに爲さんとする、其の大望を失ふたる青年ほど哀れなるものはないであらう。青年にしてより善きことを爲し得らるゝのに、單に善き事を爲して滿足し、若くは偉人となり得るに凡人を以て滿足するのがあるのは如何にも歎はしい事と云はなければならぬ。

第三に不品行と云ふものは人の集注力を奪ふ。私は嘗て中學校の敎師と話したことがあるが、其人々の申すのには學生が入學する時分に其眼は輝やいて居り、注意深くあり記憶力は强くあるが、暫時經つと段々變つて其眼つきは惡しく記憶衰へ注意力鈍るやうになると云ふことである。職業の何たるを問はず、最高の位地に達する人は誰であらうか。それは勿論品行の潔い人である。自分の精力を生涯の大目的に向つて集注することの出來る人である。不撓不屈の精神を以て前進する處の人である。然るに不品行は此の活動力を奪ふものである。此の事を考へると其次の最も重き理由に至るのである。即ち不品行は人の意思の力の根本を裁斷つて其力を弱めるものである。

或る醫學生が眼病に罹り醫師の許に行き診察を乞ふた。すると醫師は其眼を診察して云ふのに「アナタは眼が見えるやうにして貰ひたいのですか」「先生どうぞ眼の見えるやうにして下さい」と云つたときに、醫師が云ふのにはアナタは卑猥なる行爲を棄てるか、或はアナタの眼を棄てなければならぬが、どちらを棄てなさるか」と聽いて學生は椅子に兇り懸り首を垂れて非常に思ひ惱んで居たやうであつたが、漸く頭を擡げて悲しげに云ふやう「先生私は眼を失うても構ひませぬ」と答へたと云ふ事である。憐れなるかな。其の學生は幾度か々々かの誘惑に打負けて不潔な行爲をなしたる結果、今や之れに抵抗する力がなくなつたので、今しも

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

自分の意志の力を以つて之れを止めなければならぬと悟つたときに、却つて然らば眼を失うても仕方がないと決心したのである。能く考へて御覽なさい。斯くまでに意志の力を失ふたるものが、常に誘惑に克つて正義を擇び、之れに因つて其意志を鞏固にしたのと同一の成功を得らるべき理由があらうか。

□純潔は道德上の勇氣を鼓舞す

第四に諸君と共に考へて見たいのは、人の自尊自重と云ふ念を害する事である。何人も我身を遊女の如き卑き者に任せて置いて、なほ其身を重ずることが出來やうか。或は自から其心を重んじて居るかのやうに見せかけることは出來やうが、其心の中に於ては何人よりも能く自分の身を尊くないことを知つて居るであらう。汚れたる行爲殊に手淫の奴隷となり、又は男色の奴隷となつて居る者が如何して自分の身を尊ぶことが出來やうか。是れ明に我と我身を卑下して居るのである。或は其身の中にて最も貴き精神をば卑猥なる考へによりて左右せらるゝに至つたならば、其者は尚は自からを自尊する事が出事るであらうか。否決して出來ない。唯に自重の精神を失ふ計りでなく他人の尊敬をも受くることが出來ぬやうになるのは明かである。

尤も人は表面に於て自己を重んじて居るやうに見せ、或は如何にも勇しいやうな體裁を作ることも出來るが、古の學者は「彼等の面貌は彼等の心の違ふが故に、ソドムの如く其罪を表白し終に之れを隱蔽すること能はざるなり」と云ふて居る。實に左樣である。如何に彼等は外貌を裝ふても識者の目には其の罪惡を隱すことが出來ないではないか。又不品行に由りて人は臆病になるものである。私は嘗て或る將軍に斯樣な話を聞いた事がある。今や戰鬪將に酣の時に、先づ第一に意氣沮喪して其の場を逃れんとする兵士は如何なる人物であるかと云ふに、夫れは日頃不品行であると人より目指されて居る者であると云ふことである。之れに反して總て汚れたる事柄に斷然反對をなし其身を潔白に保つならば、これ程人の意志を強め道德上の勇氣を增すものはない。或る學校の寄宿舍の食堂で大層卑猥の談話が初まつた時、其の中の一人は之に斷然反對したが此の學生は戰場に出でゝ雨霰と飛來る彈丸の中を悠々として猛進する勇士よりも尙一層勇氣あるものと云はなければならぬ。

一□汝の神の殿を汚す勿れ

以上述べたる所は世の中に實際現はれて居る事實であつて、私は之れを單に理學上及歷史上より論じたのであるが、今聖書に表はれたる神の聖言を諸君に紹介して、之れが如何に學術と實際の語る所に符合するかと云ふことを考へて戴きたいと思ふ。聖書に『遊女の家は死に至り其道は黃泉に赴く』と書いてある。又神の聖教の中には『爾曹姦淫するなかれ』とある。諸君の中に多くは其やうなことは覺えもないと申されるであらうが。イエス、キリストは此の事に就て『女を見て色情を起すものは、心の中既に姦淫したるなり』と仰せられた。諸君が心の中に犯したる罪は、神のお審判を免れる事は決して出來ない。又『人若し神の殿を汚さば神秘を壞たん。そは神の殿は聖ければなり。此の神の殿とは爾曹を指すなり』即ち諸君の肉體は皆神の殿と申してあるのである。又聖書の中に『總て淫を行ひ、姦淫をなし、男娼となり、また男色を行ふものは神の國を繼ぐべからず』とある。更に『心の淸き者は幸福なり其の人は神を觀ることを得べければなり』と書いてある。心の淸くないものは神を見ることが出來ぬ。私は不品行が懷疑及び神を見ざることの唯一の原因とは申さないけれども、私は神を見ることの出來ない主なる原因の一

は、不潔なる心であると云はなければならぬ。諸君は是れに由りて神の法律と人々の肉體に行はれて居る自然の規則と、歴史に顯はれて居る事實が盡く符合することを悟らるゝであらう。

□誘惑は常に身邊に殺到す

他の誘惑に就て一々委借て是迄は只不潔淫猥の誘惑のみに就いて申したので、此の恐るべき誘惑は只一つに止まらず、多くの誘惑が諸君の身を襲ふことを思ふ時に、此の誘惑の裏に在つて之れに打克ち以つて其身を全うせんとする青年に對し、私は手を伸べ胸を開いて深き同情を寄せるものである。斯く申すも決して空言ではない。自分は誘惑と戰つた經驗により、至る處幾千の學生青年が其誘惑中の苦惱を訴へられた經驗に徵して、此の私が若し諸君に同情を寄せぬならば、自分は玆に不親切なるものとなるのである。諸君の中に誘惑により惱まるゝ方があつて、其の束縛を免れ、勝利の秘訣を知らんと欲するものがあるならば、深き同情を寄せるものである。而して今青年の戰ふべき誘惑の恐るべきことを思ふて、自分は彼のヴ井クトルユーゴーの書いた一つの話を思ひ出す。それはある時一人の青年が濱邊に出でゝ、海山の景色を愛でながら散歩をして居つたが、何故か歩き難くなつたことを悟つて、右の方に歩を轉じたけれども、益々歩き難くなるので今度は左の方に往いて見ましたがやはり困難を感じ途方にくれて足下を見ると自分の足は既に砂の中に埋まりかけて居つた。此の時其の青年は自分の立場の危險を氣附いた此處こそ世に言ふ流砂であつて、此の砂に來かゝつたものは、人となく馬となく幾百丈の底まで沈んで仕舞ふのである。今は狂へる如くに右に投じ左に轉じて非常に藻掻き力めましたけれども、藻掻ばもがく程下に下にと沈み往き、今や最後の聲をあげて助を呼んだのであつた。併し乍ら岸には答ふるものもなく、砂は其の口を塞いで仕舞ひ、いまを終焉と見渡す濱邊には あはれ人の影だになく、砂は其の眼を閉ぢて仕舞ひ、其頭髪のみ砂の上に見えて居つたが、それすら看る〳〵うちに砂はもとの如く平になり、跡も止めずになつたといふ。是れ實に恐ろしき死狀ではなからうか。

□誘惑に打克つ道は只神在るのみ

併し諸君の中には不品行よりして、これよりも尚一層怖ろしき死に瀕しつゝある人がある。前に申したやうな不潔卑猥の誘惑に陷りつゝ、なほ初めは樂みであり、慰であると申して居るものもあらう。或は稍々深入りして少しく困難を感じて居るものもあるであらう。其の人々がいざ自分の立場の危險を知つて其の行爲を改めやうとしても兎も角もして見るけれども、到底免れることが出來ない。初めて悔悟すれば自分は惡しき行爲の虜となつて居るのである。此に於いて恐れ惑ふて其滅亡の砂を出んと務むれば、務むる程益々墮落より墮落に至るのである。此時如何にしたらば其青年を救ふことが出來たであらうか。若し彼の砂の中に一つの岩(如何に小さくとも)があつて之れに小指の先でも懸けることが出來たならば、夫れを賴寄りて手を懸け身を支え救助の來るまで待つことも出來たであらう。然るに此救の岩なくして砂の底に沈んだる青年に比べると、諸君は遙かに幸福なる境遇にあるのである、卽ち爰に一の岩がある。此岩に有るだけの信仰を以て、假令爪の先ほどの信仰でもあつて、之れに取縋るならば諸君は必ずや其の身の亡びることを免るゝのである。此救は自分が此所に立つて居る事實の如く、實に疑ふべからざるの事實である。

斯く申し來れば諸君は『其岩とは何んであるか』と御聞きなさるであらう。私は此問を改めて『其岩とは誰ぞや』と致したい。其の岩とは外ではない。卽ち我等の主イエス、キリストである。私は今日多くの青年諸君に此のキリストを完全なる救主として、諸君に紹介することの出來るのは、實に私の光榮と存ずる所である。實にキリストは凡ての誘惑から私共を救ひ出し、又私共に力を添えて勝利を得せしむる御方である。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

日本婦人の無力と覺醒

貴族院議員　山脇玄

一、惰眠を貪る我國の婦人社會

今回の世界大戰亂が如何に甚大の刺戟を歐米婦人に與へたかは今更喫々するの要はないが、現に彼等婦人は男子に代つて軍器並に、軍需品の製作、交通機關又は生產事業等の努力許りでなく、國家の警察國防の充實等に至る迄遠き將來に其考へを致して、非常なる効顯を爲しつゝあるが殊に戰亂の影響により巨萬の富を得て幸福に送りつゝある米國婦人迄が、國防同盟其他萬般の戰時社會事業に是れ日も足らざる努力を爲して居ることや、佛國婦人が後方勤務に從事しつゝある事は、屢々戰國に於ける各新聞雜誌等に報せられ又は彼地に出張して親しく實地見聞せる陸軍將校の談に依るも甚だ明白なる事實である。我國に於ても具眼の士は近き將來に於て必ず波及す可き戰亂の恐る可き影響を豫想して我國婦人も又、此際速に自覺し蹶然として立ち、歐米婦人に劣らざる國家將來の効顯を爲す覺悟と決心とが急務中の急務中であると熱心に警告を與へて居る者があるにも係らず、我國の婦人社會は眠つて居るのか、將た又死んで居るのか今日迄其の反響が何等具體的に人目を惹かぬのは實に慨嘆の至りに堪へない次第である。何が故に我國の婦人は斯うもよく暢氣で無神經で居るのであらう。同じ婦人であり乍ら歐米婦人とは斯く迄、女として將た又國民として相異して居るのであらうか。吾人は大に此點に就て惑ひ疑はざるを得ないのである。而して斯く惑ひ疑ひたる結果、種々其の原因に就て硏究して見たのであるが、之れは悲しい哉、畢竟する處敎育の罪であるといふ結論に到達したのである。

二　彼は斯くして覺醒したり

近來我國に於ける女子敎育は大に振興普及しつゝあるが、其標榜する處を觀れば多くは賢母良妻主義の外に出てゐない。其語は如何にも立派であるが、其內容を見ると全く女子として人間としての本能を無視し、女子を只に男子の趣好の爲めに敎育して居る傾向がある。言を換へて云へば男子の氣に入り、都合の好い樣凡て男子本位の敎育を施して居る狀態である。更に之を別の言葉で云へば、嫁入先の家や家族や其他周圍に成可く早く同化し得る樣に、何事も從順といふことを眼目として敎育して居るのである。斯樣な敎育法に依つてはセ成程單に家や男子に取つては甚だ便利であらう。彼のイプセンの戲曲に現はれたノラのやうな人形と爲す事は出來やうが、眞に自信があり理想があつて手や頭や心に力が充實して

居る子を養成する事は到底不可能たるは免れない。國家社會に有爲な人物を作ることが出來ぬのは勿論、男子將來の相談相手たる好伴侶たる經濟心に富める主婦、賢明なる母となることさへも恐らく至難な業であらうと想像する。ノラは戯曲の女主人で題して一名人形の家とも云ふ。元來ノラは一狀師(我國に於ける辯護士)の年若い美しい妻であつて三人の子供を持つた極めて快活なる母であつた。然るに一朝忽然として覺醒するや、其の夫に向つて自ら曰ふやう『現在に至る迄丁度八年間、汝と共にあつて決して幸福を感じたる事なし。否只愉快なりしのみ。汝は我を愛せり。然ども我々の家庭は只一つの遊戯室に過ぎずして、我は只汝が人形の妻たること、家に在りし時父が人形の子なりしが如く然り、我子等は又我が人形の子に過ぎず、汝が我を取上げ之を持つて喜遊すること恰も、我れ子等を取上げ之を以つて喜遊すれば、子等の喜ぶ如く我にも嬉しかりき。如斯もの我等が夫婦關係にてありしが、我は最早妻たり母たる事を信せず、只汝と同じく人類たることを信ずるのみ。又は自ら人類たらん事を試みんとす。』と云つて夫子を棄てゝ家を去るのである。此の一戯曲の意義は現代の家庭及び夫婦關係を嘲笑し、盲目なる從順服從の地位に安ずる婦人を覺醒せんとするにあるのである。ノラは眞に覺醒したる婦人であつた。

三、我國に於ける女子教育の眞髓

從來家庭に於ける婦人は人類に非ずして、遊び道具卽ち生命なき人形類のそれであつた。けれども例令人類たる榮譽と本領なき婦人でも、婦人も又人類でないか。然らば覺醒しなければならない。正當なる人類の榮位に適合する地位を獲得しなければならぬと爲すのである。因習を嗤ひ傳說を嘲り新しき時代を要求するの號笛として、イブセンの戯曲は深く人心を刺戟して新しき時代の覺醒したる、又は覺醒せんとする婦人の爲めに金玉の經典とはなつたのである。尙ほ試みに我が中等教育に於ける修身書を見ると次の事柄が敎へられてある。

一、夫の選擇は我國良家の淑女は、父母長上に委せて己れの意見を述べざるを常とす。

二、祖先の遺業を繼ぎ、子孫を養成し、家產を治め家名を發揚するは凡て夫婦の共に負ふ可き責任なり。

三、女子は一旦他家に嫁せばよく舅姑の指導に從ひ、我家の舊を棄てゝ新家風に馴れ、力めて之れを維持する義務を有するものなれば深く家風に意を用ひざる可からず。

四、夫婦の緣は愛情に依つて繫がれ、愛情の根底は相互の貞操に存す。蓋し貞操の純潔なるは、愛情の他に讓らざるを示す所以にして、之れなくば、夫婦の和合す可き意義を失ふものと言ふ可し、故に貞操は夫婦間に存する一切の道德の基礎なりといふも過言にはあらず。從つて男女に依りて其の輕重を分つ可き道理ある事なし。されど我國の組織は家族制度を基礎として、特に血統を主ず可き國なるが故に、妻なるものの貞操は家と國とに對して一層重要なる意義を有する事を知らざる可からず。

五、例令舅姑が怒りに委せて激しき言語を發ち、荒き所業を

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

爲すことありとも、憾まず怒らずして快く之れに從はゞ如何に情なき人々なりとも、遂には其の態度を改むるに至る可し。這は世の例に徵して明白なり。

四、因習を固持せんとする盲目者

之等の事柄を綜合玩味すれば、我國の夫婦關係は家族制度の上に立脚して居る事は明白である。併し同時に家族制度は實際にあつては其儘ではなく、家庭制度を多分に加味して來た事は疑はれぬのである。何故なれば第一に於ける夫の選擇は父母長上に委す可きものと、あると思へば第四の如く夫婦の縁は愛情に依つて繼がれなければならぬといふ事であり、更に血統を主ずる上に殊に女子のみに貞操を强め或は舅姑の絶對服從を要求する狀態である。一見新舊思想が雜然混沌として、且つ個人の良心を鈍くして居るが、其の根本義に至つては矢張り家族制度を原基とする事、毫も疑ひを入れる餘地が無い。

若し現代の女子敎育家について彼の敎科書に現はれるが如き、當局の固陋な偏見に盲從するを以つて能事了れりと爲すならば、吾人は又何をか云はん。斯る時代遲れの偏狹な敎育家の指導の下に立たねばならぬ女子こそ實に憫然の極である。且つ其の訓戒の如きも恐らくは千偏一率で必ず左の範圍外に出でぬであらうと思ふ。

『女子は多く家に在つて直接社會國家に與かる事なし。然共家庭の良否は國家の健否に關する事甚大なるは勿論、家族制度の維持は國體の基く處なるを思はゞ、女子の社會國家に對する責任決して小なりといふ譯には行かぬ。されば、女子が嫁して他家の人となるや、良く舅姑に盲從し、夫は如何に我儘勝手を働くとも、温和に之れと和し小舅姑如何に意地惡るく當るとも凝乎と耐らへて親み、身を犧牲にして家内の平和を圖るを念とせねばならぬ。親族と交はつては家族を第一として、以つて家風を發揚し家門の繁榮を計らねばならぬ。實に我が生家を出でゝ夫の家を家とするは我國の女子が社會國家に盡す可き重大なる任務なれば、幾多の艱難辛苦ありとも忍びて、家族制度の維持發達に努むる覺悟を有せねばならぬ。』と

茲に至つては何と評して良からうか、世の進歩を阻止する强敵は百萬の兵に非ずして、因習の墮力である事が之れに依つて知られる。嗚呼恐る可きは因習の墮力である。（續く）

廓清會公告

△役員改選の結果

本年度總會に於ける役員改選は、會長、副會長、理事、並に、評議員全部重任を乞ふ事とし、新に評議員として鐵道院中管局長、長尾半平氏並に高岩義政氏を推薦し、兩氏の快諾を得たり。

△大倉評議員逝去

評議員大倉文二氏は七月十九日長逝せらる。追慕の情に堪えず、謹みて哀悼の誠意を表す。

△森村顧問の寄附

顧問、男爵森村市左衛門翁は今回本會に金四百圓を寄附せらる、謹みて感謝の意を表す。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

酒と戰爭

醫學博士　大澤謙二

酒とは米を以て醸造した飲料の名稱であるけれども本論におては酒精を含む總ての飲料に此語を適用する

酒は米の外に麥からも製し（麥酒）葡萄よりも造る（葡萄酒）。酒其他砂糖や砂糖に變化し得る所の澱粉を含んだ物質なれば、何物からでも酒精を醸造する事が出來るから其種類は實に夥しい物である。尚又此醸造酒を蒸溜して火酒（燒酎）を取り、之に芳香甘苦の諸成分を加へは種々雜多の人工酒を製出するから酒の種類は益々多數となる。併し酒の作用は專ら酒精にあるのであるから、別々に述べる必要はないと思ふ。

酒精の作用は二樣であつて甲を急性酒精中毒と云ひ乙を慢性酒精中毒と云ふ。

急性中毒は酩酊狀態となつて現はるるもので、輕度の時は精神が少しく發揚興奮して擧動が活潑となる位に止まるが、較々其度が進むと思慮は敏捷ならず、注意は周到ならず、理解力は澁滯し、記憶力は減退し、深思熟考する事は出來ず、自負尊大となつて人を罵詈する樣になる。更に其度が進むと高尚な情緒は攪亂せられ、美的並に道德的觀念は次第に消失し、自守自制の心は益々侵害せられて擧止は破廉耻となり、行爲は躁暴となりて諸種の罪を犯す樣になる（誹毀罪、侮辱罪、風俗を害する罪、猥褻罪、往來通信妨害罪、家宅安寧妨害罪、虐待、毆打創傷、殺人等の罪）。酩酊の度が更に進んだのは所謂泥酔であつて、精神は益々溷濁し事物の正當な認識は全く鈌損し、自ら不意の災害に遇つて殺傷する事も往々あり、極度に達すると昏睡狀態に陷り其儘死亡する者も少くない。慢性中毒の症狀は省略する。

酒精の作用は右の如きものであるから、酒は軍隊に不必要である。用意周到なるべき番兵や斥候兵隊には特に禁物である。日露戰役にはウオツカに酔つた兵卒が眠つた爲に凍死した事は稀有でないと聞いて居る。實に危險千萬である。

酒の射的に及ぼす作用に就ては一九〇三年瑞典のベングト、ボーイ氏の試驗に由て三四十瓦の酒精の爲に的中數が大に減ずる事が明瞭となつた。一九〇八年には獨逸のクレペーリン教授はババリヤ國陸軍省に出願して精密な試驗をした。優等兵二十名を撰出し十六日三十回に亘りて二萬七千發の射的を行ふたのである。試驗は午前午後に行ひ水を飲んだ場合と酒精四十瓦（十匁餘で小さなコップ一杯位）を用ひた場合とを比較したので、的は二百米の距離にあり臥位で射擊を行ふたのである。豫備射的の數を百となし夫より五分、廿五分、四十五分後の成績を（一）（二）（三）で表はしてある。

甲　水を飲みし場合

午前		午後	
豫試	一〇〇、〇	豫試	一〇〇、〇
（一）	一〇二、二	（一）	一〇二、〇
（二）	一〇二、八	（二）	一〇二、五
（三）	一〇二、五	（三）	一〇一、四

（一）と（二）に於て的中數の增加したのは練習の結果であり（三）に於て少しく減じたのは勞れた爲である。

乙　酒精を用ひた場合

午前		午後	
豫試	一〇〇、〇	豫試	一〇〇、〇
（一）	一〇〇、三	（一）	一〇二、七
（二）	九九、七	（二）	一〇〇、五
（三）	一〇〇、〇	（三）	一〇〇、八

酒精を用ひた場合でも、五分後迄は練習の成績の爲に豫試の成績よりは較佳良であるが、廿五分後には豫試よりは不良となり四十五分後には豫試と同一となる。然るに午後の試驗に於て（一）（二）（三）の成績が何れも豫試より佳良であるのは、胃に食物が充てあるから少量の酒精では其害が著明でないのである。

右は總平均數であるが人に由つて中毒作用の少ないのもあり或は早く現れるのも晩く現れるのもある、一時は水を吞んだ時より却て的中數の多い事もあるが後には其數が減じて來る槪して言へば平素射的成績の佳良なる兵士が四十瓦の酒精を用ふる時は、的中數の減却は一〇乃至十二%である。

勞れた兵に酒を與へると恰も勞れた馬を鞭打つと同じ效能があると云ふ者があるが、酒を用ひると疲れ方は一層甚しく恢復は一層遲い。勞れた馬を無理に使用したのと同じ成績である。井口大將は「突貫の際に酒を用ふると必ず失敗します」（「禁酒」六十八頁）と云ふて居らるる。

いざ開戰と云ふ如く精神の緊張した場合や、一時戰

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

醉して幾分心に弛みのある場合や、愈々凱旋する事になつて心中歡喜の充滿した場合には兎角酒を用ひたがるのである。生て再び故山の地を踏む事が出來るや否と云ふ場合に酒を用ふるのは止むを得ぬと云ふ者もあるが、其結果は不良である。今回の世界戰の始めに當つて獨逸は動員中全然酒を禁じた。其結果は世人の熟知する所である。然るに其同盟國たる墺國は之を怠つた爲に動員が思ふ樣に行かず、中途にして同じく禁酒令を發した。日露戰爭後滿洲軍の凱旋部隊は何れも大連と柳樹屯に引揚げ、それから乘船して內地に歸還するのであつたが、其迄歸着すると直ぐ一定の舍營に收容して一歩も外出する事を許さず酒は一滴も與へなんだ。實に軍隊の衛生にとつては大英斷であつた。其結果の良好であつた事は何人も承知して居る。

今回の世界戰に於て各國は酒に對して如何なる處置を爲した歟と問ふに一大英斷を行ふたのは、

露國

である。九億六千餘圓の歳入を棒に振つて禁酒令を斷行した。日露戰爭の終つた時に瑞西の學者でフォーレルと云ふ人は「上戸の露國は下戸の日本に負けたのである」と評して居たが、露國は酒の害を最も明かに感じて居たのである。其結果に就ては未だ正確なる報告に接せぬけれども瑞西で發行する「酒の研究と禁酒」を目的とする月刊雜誌や、主敵セリヤー師の講述した「露國に於ける禁酒令の結果」や、內務省地方局で出版した「戰時列國地方資料」の第三輯を參考して其大略を左に掲げる。

（一）人民の道德は著しく改善した。警察事故は減少し拘留者は殆んどなく、遊民の跡を絶ち盜難の虞なく、犯罪者の數は地方に由りて差あれども少きは二十五％多きは八十％を減じた。從て監獄の費用は大に減じた。火災の減却は四十六乃至五十五％である。飲酒の爲に起る鐵道事故は已前四・三四％であつたが今は〇・九五％となり自殺者の如きも殆ど跡を絶つに至つた。訴訟は非常に減却した。

（二）村落に於ける生活狀態は改善した。已前半泥醉者の爲に妨害せられし會議も速に片附き、從來夫が賃金全部を費消するを防ぐ爲に、土曜日の午後妻は村落の入口に出て工場より歸來る夫を待構へて賃銀の幾分を得んと爭ふた。然るに今日は斯る光景の跡を絶ち。衣服は從來賦拂金で購入した農具は現金にて買はれ。新調せられ時計蓄音器を所持し土地及有價證券を買入るる者さへある。就中婦人小兒の生活は大なる希望と回復の光明を認むるに至つた。

（三）職工の技能は增進し其功程は十乃至十五％の增加を來たし、職工の自重心は增大し事業に對する熱心の度は高まり、就業日時を增し休業を減じ、雇員との關係は圓滿となつた。勞働者の賃銀は非常に昂騰し已前は一日八十哥であつたのが今は一留六十五哥となつた所もある。生產力は平均して九％は增加した。

（四）病人は減じた。酒精毒者や精神病者外傷者は勿論、他の患者も減少して在院患者數は次第に少くなつた。

（五）經濟狀態は佳良となり質屋の貸付金は甚しく減少し、諸銀行の預金は著しく增加した。次に、

英國

に於ては開戰の初めには酒に對して何等の取締も無かつた樣である。然るに職工の賃銀が增加すると共に飲酒の度も加はり休業者が增加するのみならず、果ては就業時間を減ぜしむる爲に同盟罷業を企つるに至つた。英國では上中流の人々は戰爭の重大なるを自覺して居つたが、下流の者は餘程氣樂であつた。是ではならぬと云ふので帝室は戰時中酒を絶て人民に模範を示さんと企て、尙又ダバノーン卿を酒類販賣中央監督局長に命じて飲酒取締令を勵行せしめた。就中有効であつたのは酒の販賣時間の制限である。已前は一日十七時間であつたのを、今は午後零時より二時半迄と午後六時より九時半迄合計五時間半に減却した。斯る制限が有効である事は已前にも經驗した。大正元年リバポールでストライキのあつた時、即ち八月の十八日から廿七日に至る迄從來酒店の閉鎖が、午後十一時と規定してあつたのを、二時に繰上げた。此十日間の犯罪者の數は百人であつて、之を前年の同日時の罪人三百五人に比較すると大なる減じ方である。ストライキが濟んだ後の八月廿八日から九月二日迄は已前の通り十一時閉店とした所が、此六日間の罪人は三百二十七名であつた。

右の制限の他に火酒に對し強制的水割法を定め、麥酒釀造量を制限したが、兎角不取締に流れ易いから軍需品職工に對しては、軍需大臣推擧の下に酒保を開設して居る。

是等取締の結果は泥醉者、罪人、自殺者の減却となり其數も分かつて居るが之を略する。

佛國

佛國のアブサンは露國のヴォッカと同樣一種の火酒であつて、其毒害は何人も承知しながら之を絶つ事は不能であつた。然るに今回の大戰は之を禁ずるの機會

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

さなり其販賣、運搬、製造を禁止するのみならず所在の原料は燒却した。尙又二十三度已下の葡萄酒を原料さした酒類の外、火酒其他酒精の酒類を現場に於て消費せしむる爲に新に珈琲店、立飲所、又は酒類小賣店を開業する事を禁じた。其他法律命令に依らず各自の申合せで禁酒を斷行する組合も少くない。「開戰當時我が社會に現れたる高尙なる人心の累脹は近き將來に於て一層强固さなるべし。而して此調和せる喜ぶべき一致の結果は所謂新佛國を生み、戰時に現はれたる英雄的行爲其の他幾多の美德に加ふるに、心身共に健全なる多くの國民を得るに至るべし」さ云ふて居る。

伊國

伊國に於ては從來十六歲以下の少年に酒を賣る事を禁じて居つたが、今回の戰爭已來佛國同樣アブサンを嚴禁し、酒類販賣店の減却を奬勵して居る、軍隊に於ては已前のブランデー壜は珈琲を以て充たさるるさ云ふ者があるが、果して然る歟不明である。

獨逸と墺國

此兩國が動員の際兵士に酒を禁じた事は前に述べたが、戰地に於ては禁止して居らぬ樣である。開戰の當時獨逸皇太子殿子はフォンブラニッツ少佐をして大量のラムさアラック(何れも火酒)を急速に送るべしさの電報を發せしめた。之を聞た酒類關係業者の歡喜は一通りでなく「大勝を得たる皇太子軍は酒精を要求せらる。出征兵に對する慰問品は火酒に限るさ云ふ大々的廣告を各新聞に揭げた。そこで麥酒業者も羨しくなつたさ見へ「小樽入の麥酒を送れさの命令を皇太子軍の參謀部から受取つた樣に」新聞に廣告したが、是は先づ麥酒を寄附し夫に對する禮狀を得て之を惡用した趣である。元來佛人の葡萄酒獨人の麥酒は日本人の茶さ同じく男女老幼を問はず食事毎に用ひ來つたのであるから、一朝にして之を絕つは難儀に相違ない、現に佛國では葡萄酒は嗜好品にあらず食品なりさし取扱つて居る樣子である。併し麥酒に至つては水澤山の爲に輸送に困難であらう。日本の酒は麥酒に比し三四倍酒精を含有するに拘らず、日露戰役には之を凍詰せしめ酒精分のみを離して滿洲軍に送つた事もあつた。獨逸兵の書狀に「佛國に入つたら有名な葡萄酒を分捕る積りであつたが一瓶も殘つては居らず、國許からも酒は來ぬので止を後ず禁酒黨さなつた」云々さあるを見ても、獨兵が酒に喝して居る事は誠らしい。併し前述電報に對する在獨禁酒黨の驚は一通りでなく、早速殿下に伺書を差出した處侍從長より「發せしは事實なれども之は嗜好品さして用ふるにあらず、專ら赤痢感冒等に對し醫藥さして用ふる爲である。」尙又禁酒の主旨には贊成であるさの返事が來た。併し一旦開始された火酒の輸送は容易に止まぬので終に第九軍團長のフォン、リヨールは「皇太子殿子がラム、アラックを望まれしは赤痢感冒等に對し醫藥さして用ひんが爲なれば、之を慰問品さして送るが如きは全然不必要である」さの公報を發した。兎に角軍隊に於て酒を嚴禁して居らぬ事は誠らしい。然らば一般國民は如何さ云ふに麥酒の製造は平時の四割に減じて居る趣である。之は麵麯製造の爲に大麥を節約した結果である。墺國に於ては穀類の釀造を禁じ酒類販賣の時間を午前九時より午後五時迄に制限して居る、獨逸では販賣時間さ制限して居るが地方々々で長短があり處によつては、制服を着けた兵士に對して酒の販賣を一切禁止して居る樣子であるが詳しい事は不明である。

米國(北米合衆國)

全國四十八州中には禁酒運動の最も盛んな國であつて、六年後には全然禁酒する事に過半は禁酒して居り今より決つて居る。開戰已來酒に對する取締は一層嚴重さなつた事は聞いて居るも詳細の事は不明である。

中立國

和蘭では動員間は酒を禁じ其後の取締は地方官の中に一任してあるが、兵士に對し酒を嚴禁して居らぬ樣子である。瑞典に於ては動員間の處置は主長に一任してあり、其後火酒を禁じ葡萄酒さ麥酒の販賣を大に取締つて居る。嗹國は酒類製造に馬鈴薯穀類を使用する事を禁じ酒類販賣を嚴重に取締つて居る。諾威では動員の際禁酒しなかつた。平素節酒して居るから其必要を認めぬのである。釀造取締は嗹國同樣であり一九一四年八月四日已來火酒を禁じたが、其後火水木曜日の午前十時より正午迄は其販賣を許した。瑞西に於ても釀造上の制限は嗹、諾同樣であり尙兵士には酒を禁じて居る、併し士官が先に立て禁を侵すから下士卒に對する取締は不充分であるさ聞く、西葡(葡は聯合國側)國の狀態は未明ではあり。南米及中央米國の狀況も同樣である。多分後者は東洋諸國さ同じく別段の取締は無いものさ察せらるる。

已上で戰時列國が酒精に對して取つた政策の大體を述べ了つたのであるが特に注意すべきは穀物及馬鈴薯を以て酒を釀造する事を制限し又は全く禁止した國の多い事である。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

道徳上より觀たる都會と村落

文學博士　吉田熊次

■村落は果して道徳上の理想境乎——公徳に關する徳義は最も低級■

道徳上から見て、都會と村落とはどんな狀態にあると一般の人は考へてゐるかといふと、村落は道徳上の理想境であると都會は道徳上罪惡の巷であると思はれてゐる。卽ち村落生活をしてゐる人と聞くと眞面目な人と信用する。而して都から來た人と聞くと惡い事をせぬだらうか、自分を欺きはせぬだらうかと危惧するやうである。私は先づ此の一般的見解が果して正當であるかどうかに就て卑見を述べて見やう。

第一村落は果して道徳上の理想境であるかといふに、私は嘗て獨逸に留學中或小冊子を讀んだ處が、此問題に就て全く一般と違つた見解を下してゐるのを見た、それは村落に於ける男女關係は、世人の考へてゐるのと正反對で、獨逸の村落は、さういふ機會を與へてゐる。祭禮休日等に於て男女は、相會ふ機會が與へられてゐる。村落の男女は案外墮落してゐるのである。故に村落には特に道徳運動が必要であるといふ樣な事が書いてあつた。果して然らば少くとも村落は理想境とは行かない。私の郷里に於ける青年男女の風儀を顧みても、決して理想境とは考へられぬ。田舍の村落よりも或は田舍の小都會により多く惡い處があるかも知れぬが、要するに村落を以て道徳上の理想境と認むる事は出來ない。

第二に公徳に關する徳義が決して進歩して居らぬ、我國は一體に公徳心が進歩して居らぬといふ非難の聲を屢々耳にするが、それは村落に於て一層此感を深うするのである。假へば田舍の小學校の兒童などに於ても明かであるが、私などは餘りしなかつた方乍ら、私の田舍では平氣で桃などを盜んで食べる。そして斯ういふ事を地方の青年の特權の如く心得て居るのである。地方に於て園藝を妨ぐる如きもそれであると思ふ。斯うした事はどうも都會生活に比較して甚しい。電車に乘つても分るが、都會の人は老人であるとか荷物や子供を抱いた人には席を讓るといふ事が行はれるが、田舍から東京見物に來た手合は、先を爭つて乘り、人を押分けて席を得やうとする。斯くの如きは村落の人に公徳心の缺如せる事を明示する適例であつて、また村落生活が道徳上の理想境でない事を語るものであらう。

■都會生活は果して罪惡の巷乎——村落の長所と都會の短所■

然らば都會生活は果して罪惡の巷であると云ひ得るかといふに、決してさうは云へぬ。都會の人は道徳的に村落の人以下であるとは思はぬ。男女關係などに於ては、都會生活は極端に腐敗してゐるものもあるが、比較的には一般に却つて純

潔であると思ふ。（村落の人にして都會へ來て學問をしてゐる人は此中に入れない私のいふのは家庭のある人達の比較である）露骨な言ひ方であるが、男女の性の自覺は田舍の人の方が早く發達するでないかと思ふ。田舍の人は餘程前から男女といふ意識が出るが、都會では比較的中性の時期が永いと思ふ。之は村落の青年は周圍が汚い言葉や行爲を隱蔽せず露骨である爲めではないかと思ふ。都會にも祭禮の樣な時に附文をしたりする惡少年もあるが、概して地方は場所が廣く惡い風儀の行はれる機會が多いのである。

私は元より我國の都會の住民が理想の境に進んでゐるといふのではないが、或は都會が一歩進んでゐはしまいかと思ふのである。

それなら飜つて村落に道德上の美風がないかといふと、多々ある。先づ第一隣甫相親しむといふ情誼に至つては一言の辯明を要せぬ。都會には隣の人と社交的の趣味を味ふなどいふ事の出來ない狀態にある。無論親戚などは往來もするであらうけれ共、溫味ある情誼は少いと思ふ。從つて人に對する感情が違ふ樣である。之に反して村落の人は一般の人に情誼が厚い。其心持といふものは何人に對しても働くのであつて、私の內などでも、私の學生時代に私の友人だと稱する見た事も聞いた事もない男が來たそうであるが、それを色々優待した上金迄貸してやつたそうである。之は田舍の人の醇なる道德心であつて、人を疑はず何事に對しても眞面目であり、正直であり、親切である。

之に反して都會生活の惡風を數へると又多々あると思ふ。先づ第一に都會には詐僞的の行爲が多い。隨分嘘を言つて物貰ひに來たりする。都會人は田舍の人よりも概して輕薄で、義理を重んせず德義心が薄い。之は都會の生活に伴ふ惡風であると思ふ。

■都會と村落と道德上の優劣——

——都會生活と村落生活の得失■

都會と村落とどちらが道德上よいか惡いかは容易に斷定が出來ぬ。愚考によれば、人間の道德心の內に都會人と村落人との間に區別はないものではないかと思ふ唯その顯はれ方が境遇によつて違ふのであるから、都會人に多く顯はれ、或は村落人に多く顯はれて來るよい方面と惡い方面があるのである。同じ人間の道德心が都會に置かるれば、都會に於ける道德上の長所短所を表はすのであつて、村落に置かるれば村落に於ける長所短所を表はすのである。要するに境遇に就て生ずるのであつて、從つて修養上には其境遇に適應して人格を鍛練せなければならぬ。

都會生活と村落生活の得失は如何といふに、先づ第一に都會生活は變化に富んでゐる。假へば住んでゐる人の種類も其職業も、人の出入に就て考へても變化に富む。之に反して村落は單調で、農業、牧畜、漁業といふ樣に極めて單調である又田舍の人は固定するから出入が少い。

これが重大なる影響を持つて來る。都會の人の道德的經驗は廣いから、ドグマに陷らぬ。田舍の人は境遇經驗が單調だから道德的判斷が一方に偏する。故に都會の人は判斷に於て比較的正しい。經驗が廣いから從つて排他的といふ樣な事は少い。村落は此意味に於て狹く固まつてゐる。自分の風習や思想と違ふと忽ち惡いとして拒ける。眼界が狹いから自然小

軋合をする。猜疑心がある。畑と畑、村と村とで隨分くだらない爭ひをやつてゐる。狹隘な感情から誠に無駄な爭をする。都會の住民は眼界が廣く心の經驗が豐富だから偏狹でない。

都會の人はまた進歩的である。之も文明史上明かなことで、田舍から新しい文明が起つたといふ事を聞いた事はない。都會は種々なるものを見聞するから新しい工夫も起るが、田舍の人は之に反して保守的で、舊習になづみ、如何にも頑迷である。

都會の人は活動的である。之は業務の性質上からかも知れぬ。都會の事業は商工業が多く、商工業は盛衰が多く變化が甚しいから、勢ひ活動的となる。村落は保守的退嬰的で、自然を友として、靜的である。

■固着より生ずる道德上の影響

――修養は其長を採り短を補ふにあり■

都會の住民は多く代る、何代も續く家は都會には少い。之は都會生活をする人の考へなくてはならぬ點である。二十餘年前ウールスが倫敦の住民を研究して、市民の活動をして居る人を調べて見たが三代と續くものはないと云つてゐる。都會に三代も生活をしてゐると、身體上に劣者となつて病死するか精神上に劣者となつて田舍に逐はれる。つまり倫敦に於て活動してゐる人は田舍から來たものゝ活力ある者であると云つてゐる。之を以て直に日本人の事を速斷する事も出來ぬだらうが、幾分適用の出來るものであらうと思ふ。諸君も東京に住むなら三代限りである。これはお互餘程考へねばならない。

然るに村落にありては、永く固定する移動するなんといふ事は始んどない。而して此事情は道德上どういふ變化を來すかといふと、都會の住民は絶えず動搖するから、道德上の制裁が行はれぬ。發覺する迄に相當の時日が要る。其上分る頃には移住するから制裁の仕道がなく、近隣がお互に知らぬ顏で居る。田舍に居ると惡い事をすると露顯をする。露顯をすれば爪彈きをされるといふ制裁を免るゝ事は出來ない。

謂はゞ田舍は道德上の貯水池の樣なもので、善い事も惡い事も沈澱して殘る。道德的に蓄積するから道德的理法が行はれる。それが地方人の醇なる所以で、都會人の嘘も其の通り、永く固定する事になれば嘘が露顯し、忽ち信用をなくする村落の人にも嘘をつく樣な利己的の心がないかといふと、さうではない。此の固定といふ事の爲めに芽はあるが發達せぬのである。一言以て之を掩へば、都會人が輕薄であり、村落人が眞面目であるといふのは固着の如何に歸する。

之を要するに都會の人と村落の人といふものは、修養の心得を異にすべきものである。都會にある故とか、地方にある故といふ間違つた輕侮又は自負心を起してはならぬ。各一長一短があるから、それ〴〵修養を勵まねばならぬ。其方法は即ち前に述べた長所を見習ひ互に短所を補へばよいと思ふ。（文責記者）

△新刊紹介

□鐵道旅行案内（鐵道院發行）年々夏期に鐵道院にて編纂せらるゝもの。各地の產業から名勝舊蹟は申迄もなく、あらゆる交通機關を說明しありて旅行探勝者にとりては正に此上なき案內書である殊に年々完美の跡が見え美麗なる插畫地圖等多數ありて說明を助くる外、本年は有名なる廣重の繪を多數に加へてある。袖珍美本三百五十頁（定價一圓二十錢日本橋本町博文館にて發賣す）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

人格と境遇

廓清會評議員
文學博士　井上哲次郎

□理性と本務

人格は色々世の宗教家教育家道德家などの論ずる處であるけれ共、一體何が人格であるかといふ事は哲學上の問題で、之を精細に説明するには可なり時間と勞力とを要するのであるが、其處にはたゞ理性的意識統一體と、かう簡單に定義する事に止めて置くであらう。

我々には先天的に理性とも稱すべきものが具つてゐる。けれ共それは始めから發達して居らず、段々經驗によつて發達するものであるが、併し凡て經驗に先立つて理性といふものが具つてゐる。簡單に云へば『本具の性』である。さういふ本具の性であるものを發達して行くに從つて理性といふものが出來て來る。理性が發達して來れば、自分は禽獸でもなく草木でもなく、萬物の靈長であり、卽ち人の人たる性格を有してゐるものであるといふ、意識が發達してくる。のみならず、自分はどういふ境遇に居るか、父母兄弟其他親戚とどういふ關係に居るか、朋友とどういふ關係に居るか、社會國家とどういふ關係に居るか。如何なる地位を社會に占めてどういふ本務を遂ぐべきものであるか、といふやうに、すべて自己の其特種の境遇に於ける關係と本務とを知つて來る處に自覺といふものが生じて來る。併し乍らたゞ自覺といふた丈では足りない、其自覺といふもの丶内には理性があるので、どうしても理性といふものに反した事は出來ない樣になつてゐる。卽ち萬物の靈長たる所以が發揮される事になるのである。そこに人格といふものが現はれる。之を人格の實現といふのである。故に人格は理性的意識統一體と斯く定義すべきである。或はまた自覺的意識統一體と云つても差支ない。自覺の内には理性があるからである。

□境遇と本務の關係

處が此の本務は個人々々の特種の境遇に應じて、實行の仕方が千差萬別となつて來るのである。人は各境遇が非常に違ふ。從つて其の手段方法も異らざるを得ない。男子は女子と違つた境遇に居る。故に女子は男子と同樣に行かない。大人と子供も異れば、また職業によつて隨分相違がある。健全なると不健全なるとによつても亦違つて來る。假へば健全なれば兵役の義務も盡されるが、不健全なれば他の方法で國家に盡さなければならぬといふが如く、非常な違ひがある。併し如何程違つても其境遇に應じてそれ〲盡すべき本務はある其の盡すべき特種の本務を盡すによつて人格といふものが實

現されて來るのである。其本務なるものは實に千差萬別であるが、其本務のあるといふことは一般普遍の事實である。そこで男子は男子の本務、女子は女子の本務、兵隊は兵隊の本務實業家は實業家の本務、青年學生は青年學生の本務を盡さねばならぬ。其の本務を盡す處に人格の實現があるのだから、本務を盡さないで、人格の實現といふことは不可能である。然るに、其の境遇といふことも隨分國々によつて、又相違がある。既に國の建て方からして違つてゐる。共和政體の國もあれば君主政體の國もある。而も同じく共和制體の國家であつても色々組織内容が違ふ。同じく君主制と云つても色々組織内容が違ふ。從つて本務の盡し方に相違がある。さういふ事を考へないで、漫然漠然人格の實現を圖つても、それは實際とあはず、其結果の思はしかるべき筈はない。これ等の點に就ては種々論ずべきことがあるが、之を今日迄行はれてゐる處の宗教徳教に就て考へて見るならば、案外明瞭になるであらうかと思ふ。

□宗教徳教と人格

我國には佛教、基督教、儒教、神道、と様々な宗教徳教が行はれてゐるが、是等は皆人格教である、基督教に於ては神が人格的のものであり、且つ基督が人格の模範である。基督教は純然たる人格教であると云つて差支ないが、併し佛教もやはり人格教である。佛陀は最大の人格である。人間が段々精神修養を實行して最高の自覺に達し、佛陀となつたのである。即ち人格中最も偉大なりとする處のものは佛陀である。而して之に次ぐのが菩薩である。菩薩も人格の高大なるものであるけれ共佛陀には及ばぬ。羅漢だとか何だとか云ふのは更にそれに次ぐ處の人格である。佛教の教理は色々複雑を極めてゐるが、一方から云へば人格教である。

然らば儒教はと云へば云ふ迄もなく人格教である。聖人を以て最大の人格としたのである。而して賢人は聖人を手本とすべしといふのである。賢人の下には士といふものがある。此の士たるものは誰を手本とするかと云へば賢人である。士以下の普通の人は士を手本とするのである。斯く段々人格の高いものを手本とするのであつて、それなら聖人は手本とする者はないかといふと、ある。即ちそれは天である。天を儒教に於ては人格的に考へたのである。天は知情意を供へたものである。人間の罪惡を知る力である。善を善とし不善を不善と感ずるものとしてある。且つ善者を賞し不善者を罰する意志力を有つてゐる。斯く天に知情意がある以上人格的のものである。それで儒教は畢竟立派な人格とならんければならぬといふ事を目的としてゐる。人格といふ言葉はなかつたが、單に人としてある『學は人の人たる所以』を學ぶのであるといふてゐる。

それならば神道はといふと、神道も人格教である。立派な人格として日本といふ特種の國家に於て國家の發展を助けた者が神様として尊ばれる。それは必ず人格の高いものでなくてはならぬ。若し左樣でない者があるならば、それは間違で、淫祠邪教である。日本といふ特種の境遇にありて立派な人格を發揮したものが神様である。楠公菅公の如きである。斯く

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

の如く立派な人格の人を神樣として祭る一種の社會敎育の組織が出來てゐる。それが神社制度である。

如上宗敎德敎は種々あるけれども、何れも人格敎で、人格の色々違つてゐるのは、境遇の違つてゐるからで精神に於て根本的の差違がある譯ではない。卽ち理性を磨き上げて自己の人格を立派にするといふ事は、宗敎德敎の等しく認むる處であり、今後の精神界に於て益々重大となつて來るのである人格の實現を以て國家と無關係と思惟する者あらば、それは大なる誤りである。人格の實現はそれ／＼の國家組織を通じて始めて可能である。人格主義は決して利己主義ではない。人格主義と利己主義との間には、截然として非常な懸隔があるといふ事を諒解せなければならぬ。

嫁入本位は不可

慶應大學長　鎌田榮吉

◉今日の女子敎育の弊は、人格敎育の上から云つて、未だ舊日本の惰性から脫し切らない所があります。動もすれば日本國有の女子の美德を保存するやうにといふ感情論を敎育上に主張する人があるやうですが、貞淑を重んずるが爲めに、無制限の柔順を强いようとするのは奴隸敎育であります。

◉何處までも「人としての敎育」を主とし「女としての敎育」を從としなければなりません。これが今日女子敎育改善の急務とする點であつて更にこれを智育の上からいふと、從來の敎育が「女としての敎育」を重んじ過ぎた結果、學校でも家庭でも兎角藝事を仕込み過ぎる弊があります。

◉素より枯淡に流れ、殺風景な人間を仕立て上げることは不可ないが、もつと啓發的にもつと自主的な女性を作り上げたいものです。「結婚を目的としての敎育」といふのが。一般世間の女子敎育思想の中心になつてゐるやうですが、之は不可ません何處までも家庭の品位を上げるとか、家庭生活を愉快にするとかいふ風に、人格敎育の根本精神と結びつけなければなりません。次に問題となるべきことは

◉將來女子の爲めに大學敎育の道を開くか否かの問題ですが、女子の能力は到底男子と同じものでないから男子同樣の大學敎育を受けさせることは、その本性に逆行するといふ說があります。これは當局者として極めて不公平な態度で、何處までも進み得るもの丶爲めに道を拓いて待つこそ、爲政家の公平なる態度であります。

◉この種の問題はアドミツシヨン問題と稱して、外國あたりではもう五六十年前に問題になつたことで、今では問題ではない、今日ではどし／＼男女共同敎育が行はれてゐます。若し、歐米にしてもつと早く女子の爲めに大學敎育を開放してゐたなら、このやうな戰亂の時としても、女流學者によつて學術研究の命脈を絕たずに濟んだこと丶思ひます。歐米諸國が旣に斯ういふ苦い經驗を嘗めてゐると知つた以上は、我國でも凡ての大學が、有爲の女子のためにその門戶を開放すればよいのであります。又今度の敎育會議では師範敎育と女子については何等問題になつてゐなかつたやうですが日本では將來何うしても女敎員を殖やすやうにしなければなりません。少くとも男女等分の女敎師を養成するがよいと思ひます。

◉私は深々日本女子の將來には大に望みを囑するものであります。何よりも日本の女子は進步して來つゝあります。町を行く女子が連れられてゐるお母さん達よりも、身長が高いそして、體格の全體も良いのを見て私は悅ばしいことに思つて居ります。これは一つは體育奬勵の結果でせうが、また一つは思想が自由に開放されつゝある結果であらうと思ひます。

◉日本女子のこの著しい進步を目擊してゐる私共は、希くは思想の自由なると同時に、獨立自主の一面には責任を以て各自の行動を律してゆくやうになるまでに進ませたいと思ひます。

▲先達て兵庫縣の藝妓取締規則を改正し、其の明し花卽ち十二時以後の營業を禁止したので、同地花柳界の一大恐慌を來したが、今回福井縣に於ても同樣規則を改め、明花を禁止したので、午前二時迄の延長の運動を起すやう大騷ぎしてゐるが、之に對し福井新聞が堂々たる議論を掲げて廓清的論議を二回に亘つて書いてゐるのは痛快である。處が藝妓連中は物價騰貴の際それでは困るから廢業すると威嚇してゐるが廢業するなら尙結構だ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

盆踊と農村の娯樂

新佛教幹事
廓清會評議員　高島米峰

□盆踊を唯一の娯樂とする地方青年

他鄉の事は知らないけれども、私の故鄉新潟縣中頸城郡地方に於ては、農村青年の唯一の娯樂として盆踊といふものがある。元來農村の娯樂期と云へば、一ヶ年間を通じて僅に盆と正月の二回あるのみであつて、恐らくは何れの地方でも略ぼ同様であると思ふ。然るに私の故鄉は雪國であるから、冬期は殆ど外出の自由を缺くが爲め折角の正月も家外で遊ぶ事が出來ないやうな狀態であるから、兎角小人閑居して不善を爲すと云つた事に陷易い傾向を以つて居る許りでなく、其娯樂の性質が室内的であつて、又社交的でないといふ樣な缺點を具つて居るが、盆踊の方は鎭守の社の廣場或は稻干場等の四面開放的の場所で、加も多數の青年男女が規率ある共同的の所作に依つて一夜を樂しく遊び暮すといふのであるから、其精神上に享くる處の影響は正月の遊びの如き因循姑息のものとは到底比較にならないのである。殊に彼等青年が此の盆踊を行ふために種々なる設備を要するのであるが、それは櫓と稱する二階作りの舞臺の如き物を組立て、出來得るだけ華々敷裝飾して、其櫓の上で笛や大鼓を鳴らして景氣を添へ、其櫓の附近並に村内の通路の兩側には、繪燈籠地口行燈等を立並べ、殊に農作物の豐饒なる年の如きは花火をも打上げて盛んに景氣を添へるのであるが、斯る事の爲に彼等多くの農村青年は各々其才能に從つて種々態々なる力を發揮し、單に踊狂ふといふ許りでなく種々な樂を享受する事が出來るのである。即ち彼等農村青年は一ヶ年間に只一度しかない此の盆踊のあるといふ爲めに、平常は努力奮勵凡ての辛苦を嘗めて其業に勵むで居ると云ふも、敢へて過言ではないのである。

□野合の多寡問題は盆踊に無關係

併して其盆踊の狀況を觀るに、前にも述べた通り櫓を中心として其周圍に一大圓陣を作り、多くの青年男女が入亂れて踊り廻るのである。其人數は各地方に依つて異なるけれども通常近村の青年男女を合せて多い時は數百人にも達する時もあつて却々壯觀を極める事があるが、それは大抵二晩であつて長くて三晩位の者で一段落となる。けれども其前後を通じて一週間位が彼等農村青年の一年中の働きに報ひらるる處の娯樂期であると云つても良いのである。然るに此盆踊には種

々なる弊害が伴ふからと言つて、所謂新しき識者が鮮からざる非難の聲を高くし、又は當局者から屢々差止めを命せられる事があつて、近年に至つては餘り大きな盆踊を見る事が出來ないといふ。弊害のあるものを見す〳〵棄て丶置くといふ事は出來ないけれども、少數の弊害を見て其他の利益をも犧牲にするのは少しく考へなければならぬ事と思ふ。元來盆踊の弊害はといふに先づ男女關係が放埒になつて、所謂野合なるものが盛んに行はれるといふ事と、假令二晩にせよ夜更け迄騷ぎ廻るのは、健康方面から觀て害のある事と其他の微細な種々なる理由があるからであるといふにある。併し乍ら私の見る處では先づ第一の野合の行はる丶といふ非難は、若し假りに盆踊が無くとも或る男女は不正の關係を結ぶ事が間々あるから、獨り盆踊の爲めに特別に其れが行はれると解す可きものではないと思ふ。現に東京市には盆踊等といふものは全然ない。だから野合の如き不正關係が殆ど無さうなものだが、事實は何うであらう。時代の教養を受けた比較的智識階級者の多い處にも係らず、不正の男女關係を結ぶ事が多いといふ事である。その點から考へても地方農村の青年男女の野合が實に盆踊のためであると斷定する謂はれは無い筈であると思ふ。夫れは畢竟都會も鄙邑も共に男女の貞操觀念の缺乏より起るに外ならないのであつて、其貞操觀念の普及徹底に力めて、一般に自覺を促したならば盆踊の有無に係はらず、不正の男女關係が自然に少なくなるのは當然であらう。

□盆踊の利益と弊害の輕重

又第二の非難も然うである。夜更かしの爲めに健康を害するといふことも一理がある。けれども朝に星を戴き、夕に月の影を踏むで長時間の激しき勞働に服し、適々其れに堪へ得る彼等青年の强健な身體が、一年に一晩や二晩を夜更したからと云つて、それで際立つほど健康を害するといふやうな事は到底有り得べき事ではない。私の生地等ではさういふ傾向は毫も見られなかつた。若し赤痢腸窒扶斯等其他の猛烈な流行病が盆踊の期日中に襲ひ來つた非常な場合には、無論警戒を要する事は云ふ迄もないが、平常無事な場合に於て農村青年に與へる影響が甚しいと思ふのは、全く都會に住む人の机上の空論であると云ふも敢へて差支ないのである。更に一歩進んで考へると、盆踊が以上の弊害があるといふ處から全く然之れを廢止するとして、夫れに代る可き如何なる娯樂を與へ得る事が出來得るであらうか。都會ならば芝居、活動寫眞、講談、落語、義太夫、浪花節等目と耳の何れを、何時でも樂ませる事も出來る機關が常に設備されて居るけれども、交通機關の不便な地方の農村に於て、斯る事をして彼等を樂しませるには鮮からざる勞力と經濟を要する許りでなく、凡そ娯樂の眞諦は自ら娯樂の中樞に觸れるといふ處に眞の愉快があるのであつて、他人のする事を眺めたり、語る處を聽いたりする丈では滿足の徹底を得る事が出來ないのは當然であるから、農村青年自らが歌ひ且つ踊り或は其準備等夫れ等の事業悉く青年自ら遂行する處に、云ふ可からざる娯樂味が湧いて來る許りでなく、其自發的である處に價があるのである。啻にそれ許りでなく盆踊を行ふために近村の青年と互に相交

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

際し、意志の疎通が圖られたりして、其結果自然に共同生活の眞義をも知らず〳〵の間に意得する事にもなる。凡て夫等が動機となつて農村青年の基礎を固からしめるやうに導かれて行くと共に、又男女交際の道も開ける事になるから、若し之れを適當に指導改善の任に當る者があれば、地方に於ける道德風敎の進歩矯正は極めて著しいものがあるであらうと思ふ。其他に櫓を組立てそれに裝飾を施し、燈籠を立て行燈を掲げるといふ準備の爲めに、農村青年をして文學的美術的の趣味に心を傾けさせるといふ効果も大に與つて力がある。

□文明の餘毒に罹れる地方青年を救へ

斯樣に考へて見ると種々なる利益は多少の弊害があるとしても差引得る處が失ふ處より多いやうに思はれるのである。殊に盆踊の効果を認めざるを得ないのは、各地方に相應した極めて粗放的な趣味を維持して、農村青年をして所謂淺白なる文明中毒に罹らさしめないといふ點にある。若し之れを奪ふならば、夫れに代つて農村青年に襲ひ來るものは淺薄なるハイカラ文明の餘毒であらねばならない。自分の作つた茄子や南瓜を肴とし社の境内に莚を延いて、分け隔てのない酒盛りを無上の樂を得るといふやうな事が一變して、村外れの安料理の二階に於て鑵詰を切つてビールの口を拔くといふ樣な狀態に代つて來るといふことは、最も恐る可き事であると思ふ。只さへ現代の農村青年は都會病とでもいふ可き、一種の思想が行はれて居つて何とかして、此土臭い農村から飛出さうといふ考へを抱く者の多い時代、否現に續々多くの青年が飛出して來て、農村の周圍は今や將に荒れなんとして居る際に、此上都會病の種を蒔くやうな、淺薄な文明の餘毒の輸入は最も警戒を要す可きものと痛切に感ずるのである。

近頃青年團とかいふものが各地方到る處に組織されて農村青年の爲に何等かの指導も爲し、又種々な娛樂機關を設けて農村青年をして向上發展を圖るに努めつゝあるやうであるが土地の狀況を考へることなしに、又風俗習慣の如何を省みる事なくして、徒らに全國劃一的に種々な事を企てゝも、それは有難迷惑な場合が多くて結局其効果を納めることが少なくなり勝ちではある。農村青年をして聯合運動會を遣らせた處があつたやうであるが、青年が自發的に遣つてこそ多少の益も認めらるゝが、之れを或種の高壓的手段に依つて命令的に遣らせても、興味も感じまいし又疲勞も多くして、それこそ勞多くして益少なしといふ結果に終るやうな事になる。左樣な新しい施設を全國劃一的に行はせるやうな考へを爲すよりは、現に其土地々々に在る處の娛樂機關を復興若くば奬勵して、其土地相應の樂みを味はせる事が最も有効であると思ふ年中行事の上から考へても或は三月の雛祭り、五月の鯉幟りとか、七月の七夕とかいふやうな事杯も成可く之れを復興させ且つは奬勵して、農村青年の興味を繋いで行く事の方が、テニスを敎へたりベースボールを奬勵するよりは、遙に有効のやうに考へられるのである。

要するに私は郷里で行はるゝ盆踊をして復興奬勵したい。それに伴ふ弊害の如きは寧ろ極めて輕微なるものであるから、餘り之れを恐れるに足らぬと信じて居る。（文責在記者）

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

大正六年度事業報告

廓清會理事　松宮彌平

大正六年度の事業は、前年度の如く飛田問題とか、警視廳の公娼擴張と云つた樣な事件が、何もなかつた爲め、從つて之れといふ報告、可き材料に乏しいのは一面から云へば結構であらう

第一に報告すべきは彼の飛田問題の結末であるが、貴族院と衆議院とに請願書を提出した處、衆議院の方丈けが採擇になつて、戸松正道氏外三十何名の議員の賛成を得て、總理大臣並に內務大臣に、取消の意志なきかを問したのであつたが、內務大臣の答辯書は頗る模糊曖昧として更に要領を得なかつた。「其ノ取消ハ考慮ヲ要スヘキモノト認ム」といふにあつた。

其後反對同盟會は倦まず撓まず運動を續行したのであつたが、愈々其非なるを見て、最後の手段として、請願令に依り上奏を爲し、之れを以つて倘目的が達し得られないとすれば、全く刀折れ矢盡きた譯である、あらゆる運動方法といふ方法も其効を見る事が出來なかつたといふ次第で、之れ以上は何うすることも出來ない譯であるから、之を以つて此運動は打切りとする事に定めたの餘儀ない結果に了つた。上奏文は會長、副會長其他役員、青年會、婦人矯風會等の連署を得て之れを送した。

如斯にして飛田問題は、遂に今日建設中であるといふまでであるが、天は此の問題の元兇たる倉藤平に禍して、未だ建築の許可を見ざる內、東京に客死して、彼は不義の富を冥土に運ぶ事の出來ない身となり、死しても尚ほ清潔なる大阪市民に憤怒せらるゝ事となつた。加ふるに府知事大久保利武子は彼の有名な水理問題で蹉跌し、遂に革職さるゝ事となつたが、其處には飛田問題に對する失敗も、また革職の一理由であるといふ事を仄聞してゐる。

演説會は前後五回、辯士延人員廿三人、聽衆約四千百人である。雜誌の配付總數は約五萬五千部であつて、此他に之にといふ出版は無かつた。出版す可き幾多の材料はあつたけれども、御承知の通り本部の財政がそれを許さなかつたからである、

尚別に御報告しなければならぬ事がある。それは聯合軍慰問使の派遣であるが、三人が悉く本會の役員であつて、即ち杉山山本の兩氏は理事、日比氏は評議員であるから、最近の內耳新しい風紀問題が諸氏より聞く事が出來る譯である。

扨て之れを月別にして見ると

五月廿五日　青年會館に演説會開催、辯士三輪田元道、麻生正藏、伊藤富士雄、ストラウト・ヘガンドレツト恒子譯、安部磯雄の諸氏、聽衆千人。

此月大阪では彼の宙返り飛行家アートスミス氏が機上より大阪市街に飛田遊廓反對の趣意書を撒いて吳れた。

六月一日　靜岡縣濱松市に演説會開催、辯士高島米峰、德江玄之助、內ケ崎作三郎、片山國嘉、安部磯雄の諸氏、聽衆八百人。

七月初旬　飛田遊廓設置反對陳情書を貴衆兩院に提出。

九月一日　同問題に對する上奏文發送

十二月六日　青年會館に演説會開催、辯士伊藤富士雄、高島米峰、藤井剛一、安部磯雄、島田三郎の諸氏、聽衆千人。此際始めて幻燈を應用して花柳病の怖る可き事を知らしめたが、相當の効果があつたやうに見受けた。で聽衆は必ず醫學者を一人づゝ依賴して花柳病の慘害を話して貰ふ樣にして居る次第である。

十二月十六日　埼玉縣熊谷に大演説會開催。是れは昨年度の總會に於ける決議に基く其の實行であつて、十三日伊藤主事は縣知事を訪問して、此問題に對する意見を叩き、且本會の主義を詳細に亘つて述べたのであつた。此集會は殆んど群馬支部の援助の下に開いたやうな譯で、同支部長德江玄之助氏並に副長森川抱次氏の奔走は洵に深謝するに餘りあるのであつた。本部からは島田會長、安部副會長、伊藤主事等出張、群馬支部からは前記の二氏出演した。町長荒木度三氏が開會の辭を述べられたやうな次第で、聽衆も約六百名に達し、町の高級者殆んど全部が來聽したさうであるから、反響は豫想外にあつたと思ふ。これは本年度も引續き同縣廢娼の目的を貫徹したいと思ふが、何れ之に就ては種々の事狀も伴つて居る事であるから、協議會に譲る事にする。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

大正六年度 收支計算報告

（自大正六年四月至七年三月）

廓清會理事　小松武治

收入之部

廓清會收入	二、四九六・七〇〇
正會員收入	一、六六二・三六〇
贊助員收入	五五〇・〇〇〇
雜誌及トラクト收入	六二・一四〇
廣告收入	一一三・〇〇〇
入場料收入	一〇九・二〇〇
現金（前年より越）	三・三四〇
計	二、五〇〇・〇四〇

支出之部

雜誌費	一、八四四・二二〇
編輯費	七二・七六〇
發送費	一五二・六四〇
印刷製本費	一、六一八・八二〇
事務費	四四八・二二〇
通信費	一七・六一〇
交通運搬費	二五・一一〇
文具消耗品	一二・二二〇
印刷廣告費	一四・七〇〇
振替口座使用料	一八三・八八〇
事務所費	三四・一〇〇
旅費	一二・〇〇〇
傭給及諸給	一四八・六〇〇
集會費	二九〇・九三〇
會場費	九二・九〇〇
支部集會補助費	一五・〇〇〇
文具及消耗品費	一八・八〇〇
交通及旅費	一〇・九五〇
廣告及印刷費	七二・五一〇
通信及運搬費	五九・〇〇〇
辯士謝禮	八・〇〇〇
雜費	一三・七七〇
計	二、五八三・三七〇
現金（次年度へ）	一六・六七〇
合計	二、六〇〇・〇四〇
差引不足	一〇〇・〇〇〇

廓清會總會記

△協議會

△懇親會

第八回總會は既記の如く、六月廿九日午後二時より神田一ツ橋通り女子職業學校内に開催、定刻島田會長議長席に就き、第一部報告會より開始す。松宮理事の別項記載の大正六年度事業報告あり、次いで小松理事の會計報告、大阪支部、林歌子女史の大阪支部に於ける事業報告、京都支部よりの報告並に祝電等ありて、第二部の協議會に移りたるが、娼妓年齢低下運動の對抗策、印刷物傳道の方策、地方開拓策の三件は何れも議長指名の委員附托となり、島田議長は直に小松武治、松宮彌平、油谷治郎七の三氏を擧ぐ、財政的基礎を鞏固ならしむる件に關しては、日疋信亮、山本邦之助、湯淺次郎の三氏に主として盡瘁せられん事を希望し、最後に役員改選の結果、島田會長重任、其他の役員は會長の指名に可決し、懇談會に移りたる後晩餐會を催して午後六時半演說會となる。

△演說會

例年なれば青年會館に開催す可き筈の本年度總會は、當日青年會主催の文藝活動寫眞會とかありて其意を得ず、女子職業學校の好意に依りて漸やく間に會ひたる次第なるが、何分にも場所柄とて少しく不安を感じ居たりしも、定刻前より聽衆は雪崩を打つて續々詰寄せ、午後七時頃には殆ど立錐の餘地なき程の意想外の盛況を見るを得たり。劈頭伊藤主事開會の辭を述べ、次いで山室軍平氏は役員諸氏の懇望に依り登壇、誘惑論と題して青年子女が如何にせば此都會の誘惑に打克つ事を得るやに就き、大に訓誡する處あり、醫學博士三宅鑛一氏と更る。氏は精神異常の原因に就き、從來世人一般が輕々視せる處の、彼の輕微の梅毒が、遂に精神異常の原因となりて、一生を過る者の多きを統計を引用して詳細に亘り學術的講演を爲し、次に内ケ崎作三郎氏は急霰の如き拍子に迎へられて登壇、戰爭と婦人と題して、婦人の虛榮を誡め、世界に於ける婦人の活躍振りが如何に目醒しきかを、我國婦人の現況に對照して大に警告する處あり、林歌子は最近の貞操問題に就きて島田會長は風敎と政治との關係と題して一時間に亘る大演說を試みて聽衆をして大に感動せしめて十時半閉會したるが、當日の聽衆千二百餘名に達したり。因に當日は同校の寄宿生徒四百餘名、舍監に引率せられて來聽されり。

貞操論

一等

青山女學院　大橋房子

一、問題の生起

創造の初めに於て神は男女を作り異性相引く微妙な本能的愛を與へ給ふた。されば凡そ生きとし生ける者は異性を戀ひ慕ひ無數の美しい詩歌ロマンスをもつて人生を色どつた。而も神の遠大なる計劃は此處に止らず、兩性間の愛の裡に種族保存の本能をも隱し給ふた此世に現在生を有てるもの一として創造の昔から代々の男女が相合ひ相はぐゝんできた末孫ならざるはない。

異性を戀ひ慕ふの情はその戀ひ慕うた異性を獲得するや必然的に專有の欲求となり、その專有の欲求を充さんが爲に多くの競爭者と敵對して戰はればならなくなつた。愛するものと延いてはその子を守らんとする男性の戰は、單に人間社會のみならずあまねく生物界を通じての顯著なる事實である。

女性を愛するの餘り雄々しくもふるひ立つて、自分等の存在を全うせんが爲に戰つた男性は、その報酬として戰ふに足る力と獨立に堪へる强さとを獲得した。然しながら斯くの如く存在の手段として起つた男性の仕事は、丁度その頃盛になつてきた私有財産制度の影響を受けて、遂に方便を逾り越して目的の如くになりたまく以て男女間の純な關係に破綻をきたす原因となつたのである。卽ち苦鬪によつて得たその力に對する男性の誇りは、他面女性に對する優越感となり、遂にか越惑はやがて劣等者に對する輕蔑の情となり、遂にかつては熱烈な愛の對象であつた女性をも一種の私有財産視し、奴隷視して、强力を利用して弱者を蹂躙するに至つたのである。かくて男性は一家の專制君主となり、全家族をその配下において家産の增殖と一族の繁榮とをはかつた。同時に男自身の努力によつて得た財産をもつて自分一個の快樂を求めるのは當然の事であり、多くの女性を養つて居る事を一種の誇りと考ふるに及び、男性の貞操は此處に破れて公然多妻主義が行はるゝに至つたのである。

家長制度時代における女性は、經濟的獨立のない弱者劣等者であるが故に、又男性に養つてもらつてゐる奴隷であるが故に、よし夫なる男性は多妻主義をとつて居ても、無條件に男性に仕へ一人の夫に操を立てればならなかつた。女性が男性の配下に盲目的に從つて居る間は、女性にとつて男性の貞不貞は問題でなかつた。そして男性は自分の道德的生活の如何にかゝはらず、女性に絕對的從順と貞操とを要求してはゞからなかつた。然し一朝覺醒し自覺するや、女性は男性の不貞を怒り女性自身の自由を欲して男性に反抗せんとした茲に於て男性は聲を大きくして女性の貞操を叫び、その强力と社會的勢力とを利用して男性自身になるべく都合のよい樣に從順と貞操とを道德的標準とする所謂女らしい女を男性自身の手で養成し來つたのである。

二、社會の現狀

「家庭は實に我々男子の避所である。慰安所である。女子は結婚して男子の內助者とならればならぬ。そして一度妻となつたからには絕對的服從と貞操とを以て男子に仕へればならぬ。」

とまだ性に目ざめぬ純な少女を前に恥かしげもなく頭から說きつける倫理の先生の顏をみつめてむらくおこる反感に笑ひ出し度くなつたことがある。此樣にして小さい時から從屬的敎育を受けたうら若い女性はたゞ地位と財產とをたよつて盲目的に淸い身心をみずしらずの異性に獻げる。そしてその男性の品行如何にかゝはらず社會から貞操を要求される。

私は「世の中はかうしたものだ。」となかば捨ばちに云つて自分の生活にあきらめをつける旣婚の婦人を見る每にいひしれぬ同情と憐みの淚にむせぶ。處女時代には如何にも快活なロマンテイツクな、アイデアリステイツクな人が結婚後うつて變つたリアリステイツクな主婦になつてしまふのは何ういふ譯であらう。くだらない氣苦勞や社交上の瑣事に尊い生の大部を空費さしてしまふのは誰の罪であらう。

智に於て、力に於て、年に於て數等下位にある女性を侶伴とした男性は、あまりに自分とかけはなれた女性の中に得ざる滿足を求めて或は耽溺生活に入り、或は研究に沒頭し、或は職場裡に我を忘れて事務に熱中する。そしてかういふ人の妻はきまつて極端な虛榮の女になるか、陰鬱な世話女房になり終るか、ヒステリツクな半病人になつてしまふ。そして男は女を無智の動物と見、女は男をむごい暴君と見て互に相反目する

私は地位あり定見ある人々が「手腕ある秀才に品行方正な者を探したつて無理だ。」といふのを聞く每に默

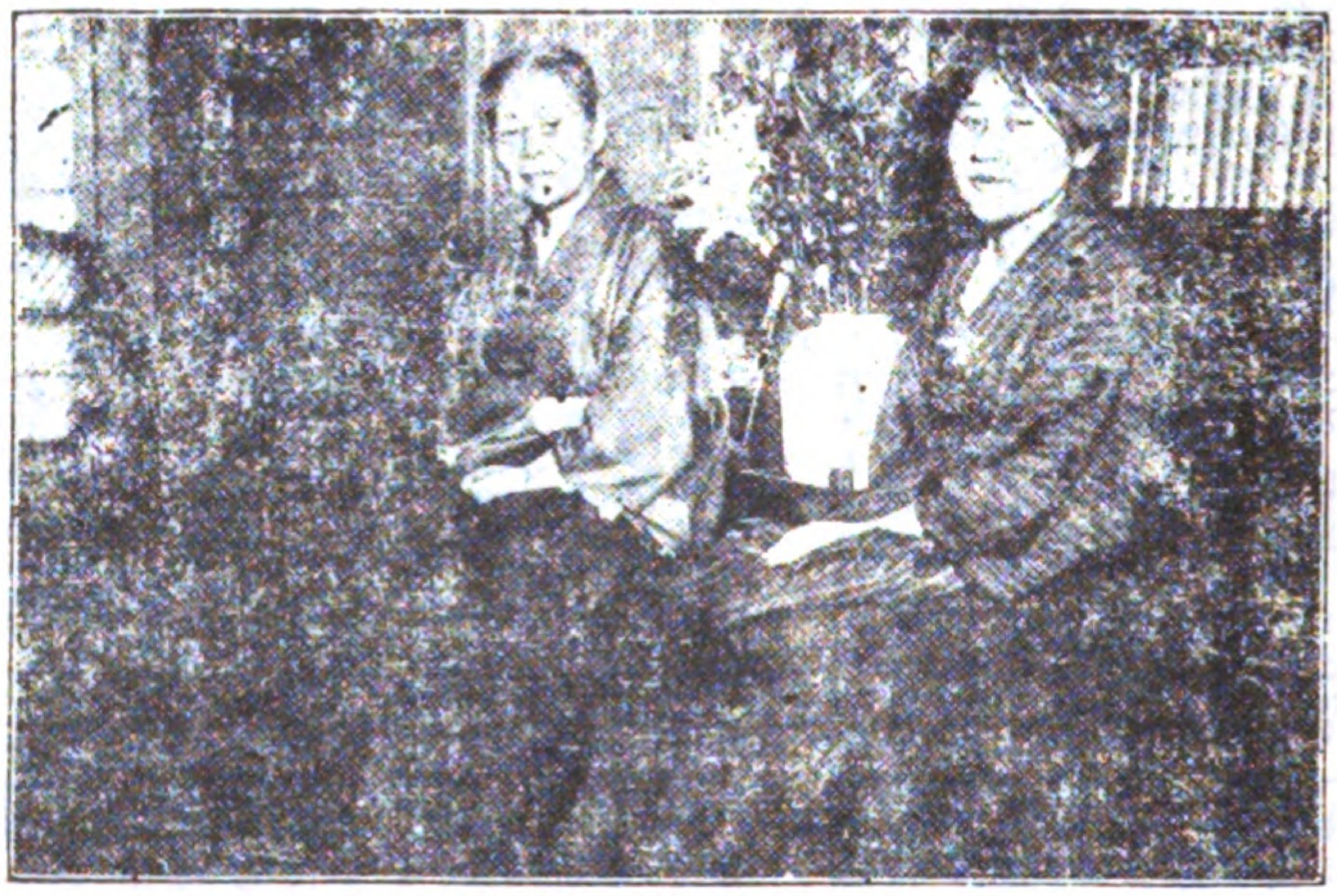
Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

かされる。そして社會的に重要な地位にある人の生活の半面の醜體を一種の不安と恐怖とを以てみながら「之が果して事實なのだらうか」と疑はざるを得ぬ。

男性の慾望を充たさんとしてか社會は夜の闇に乘じて樣々な怪しい繪卷物をひろげる。そして多くの男性は無味な事務室から紅燈の巷に自働車を走らせて、孤閨に泣く妻の事は忘れたかの樣に遊蕩に耽る。勿論かうした男性を罠でつつて生活する多數の女性も惡いにはちがひないが、その女性等を清い乙女の領域からつれ出してきたのは誰であらう、そしてよるべなき女性を、どん底の生活に陷れたのは誰であらう。それより前にか弱い女性を男性に隷屬し寄生するより外どうする事もできぬ樣に作りあげたのは誰であらう。もとより魔の手に一とたまりもなく引かれて容易に男性に屈從し墮落する女性も意氣地ないけれど、成べく女性に獨立を與へまいとしておいて、その弱い女性を意のまゝにしようとする男性は、社會的に强者であるだけそれだけ多くの責任を負はねばならぬのではないか。そして社會をその勢力範圍內におく男性が、さうしたみにくい社會を平氣で存在さしておく事は、彼等自身の半面の生活を暗に語つて居りはしまいか。

貞操に關する社會的制裁は男女によつて非常に異る男性は法律上有利な地位にある爲か、社會に勢力を占めてゐる爲か、男性には醜行の結果が女性に於ける程覿面に報はれて來ない爲か、將又女性をして口をつぐましめる秘力をもつてゐる爲か——社會的地位と不道德な行爲とを兩立させる事ができる。そして相當の地位さへあれば平氣で無邪氣な年若い少女をめとることができる。之に反して女性はよし不義の種をやどさないまでも、一度傷つけられた上は容易に正當な結婚をすることができないのみならず、よし首尾よく結婚しても烈しい內的苦悶の爲に生涯なやまねばならぬ。そして不貞な夫が何故あつて現在に於ては潔白な妻の過去を責める權利をもつてゐるかは少からざる疑問である。

しかし聖を觀する事深ければそれだけ銳く罪を感じる、世を救ふものは凡人以上の清い生活を營まねばならぬ。若し女性が此意味に於て社會から貞操を要求せらるゝこと男性よりも嚴なるならば、それは女性にとつて此上もない名譽で、女性は男性よりも道德的高貴だといふことになる。まして貞操の理想實現の爲には女性が男性より高ければ高いだけ、清ければ清いだけ男性を現狀から引き上げて淨化向上せしむる重大な責任をもつてゐると云はねばならぬ。



矢島楫風會頭と大橋女史

三、貞操の理想

上述の如く男性の優越とその橫暴と、それに對する女性の反抗から起つてきた貞操問題は、不合理な結婚や社會的缺陷の爲にます／＼複雜になつて、今は容易に解決せられ得べくもない難問題となつたのである。而も此のまゝに放任しおく時は、社會はます／＼亂れ家庭の悲劇はます／＼頻々起つて多くの男女を絕望の淵に投げ入るべきは火を見るよりも明である。

抑も神は初に男女を造り異性相引く微妙な本能的愛を與へ給ふた。かのアリストファネスが云つた樣に、人は生れながらに何れかの半身を求めて彷徨うてゐる求め合つた二つの半身が人格的戀愛に於て融合した時にのみ人間の性的生活は淨化せられ靈化せられるもので、其處に初めて眞の全き生活が行はれ、眞の幸福が味はれるのである。燃え上つた愛の焰は此の時二つの個體を全き一つの白熱となし、あまねく四方にまばゆいばかりの白熱光を發射する。けれど既に一度一つの白熱體となつた二つの個體は、個々別々にその光波を送る事もできないし、まして他の光波と交電し合ふ事などは思ひも及ばない。かうした白熱境に於ては貞操問題などゝいふものはもう影をひそめて、たゞ愛の光のみかゞやきにみちるにちがひない。

然しながら目を轉ずれば現實の姿の如何にみにくきことよ。多くの男女は見當ちがひの半身にめぐり合うて、今更はなれることもできずさうかと云つて融合することもできずに苦しんでゐる、さればこのみにくい現實はどうして生れ出て來たのであらう。如何にせば此の現實を理想に近づけることができるか。以下順を追ふて簡單に論ずるであらう。

四、原因

貞操問題の今日に至つた原因に就ては先に「問題の生起」の中に論じ、又第三節の初めに繰り返した所であるが以下各項に就て少しく詳說してみようと思ふ。

そも／＼男女は質に於てこそ異なれ、その價値に於ては上下を爭ふべきものではなかつた。然るに進化の一階段に於て男性が獲得した强力を女性壓迫の爲に用ひたのは、かへす／＼も口惜しい男性の失敗であつた勿論男性は外面に於ては自己の專制權を强め女性を弱め、努めてその支配下においたといふ點に於て成功者

であつた。然しながら彼の成功は內的に裏切られた。彼が得たりと思つた女性は眞に彼と一つになつて燃え上り得べきものではなくなつてゐた。眞に白熱するまで燃えようとすれば、彼はその位置を女性の低さを下げなければならなかつた彼は內面の空虛と不滿を充さんとして甲より乙に、乙より丙にとうつつた。そして彼自身の貞操を失つたばかりでなく、眞に靈化せられた白熱境をも忘れて、低級な慾望の爲に女性を求め求める自身をも次第に下落せしむるに至つた。此處に兩性の悲しむべき末路がうかゞはれる。

次に注意すべきは誤まられたる結婚である。眞の結婚は融合し得べき若くは赤熱しうべき二つの半身の間にのみ成立し得るのである。然るに從來の（日本に於ける）結婚は多く家の爲地位の爲財產の爲の方便にすぎなかつた。故にその目的にかなはぬ場合には、夫婦間の愛の有無に關せず、周圍から離緣さしてしまふ事もできた。後繼者を得るといふたゞそれだけの理由の爲に男性の貞操は屢々公然破られた。神のむすび給うた男女は如何なる場合にも離れてはならぬ。又離れ得る筈がない、然し方便の爲に親の手からみずしらずの他人の手に渡されたものは或場合離婚せねばならぬ。

離婚に關聯した貞操觀念に就て一言したい。從來日本では放蕩の夫に仕へる事が貞女の一條件の樣に思はれてゐた。勿論忍從と貞節は美德にちがひないが、たとへば夫が甲より乙に、乙より丙にうつつてそのまゝ自分の處に歸つて來た場合、夫妻といふ名義上の關係はあつても、直ちに自分を夫にゆるす事は、いはゞ自分を妻であると同時に丁にするので、此場合妻は彼女自身に對する、若くは彼女の中なる眞の夫の偶像に對する貞操を破ることになりはしまいか。又不倫な夫と知りながら、弄ばるゝと知りながら泣きれいりに從ふのは、明かに自己に對する貞操を破る墮落の第一歩ではないか。かゝる事實は一面女の弱さを語つてゐると同時に、他面ゆるがせにすべからざる大問題を暗示するもので、その事に就ては次の節に詳しく語らんとするところである。

最後に男性に對する社會的制裁のゆるやかな事が、男性をしてます〳〵倫理的にも肉體的にも墮落せしめ引いては全人類及び來るべき數代後の子孫にまで多大の影響を與へる一大原因だといふ事を附言しておく。

五、改善の道

兩性の間が戀愛によつて彩られ、その戀愛が戀の勝な詩となり歌となりロマンスとなつて人生を色どつたのは既に過去の夢となつた。永い間壓迫せられ續けた女性の切ない叫と、必然の勢とは知りながら今それを聞く男性の不快さは、人生を著しく散文的にしてしまつた。そして兩性は見失つた半身を求め〳〵て彷徨ひながら而もひそかに暗鬪し合つてゐる。しかし私は人生を血なまぐさい戰場と見度くない。私は平和なエデンの國に昔の詩を再生させたい、そんなら私達はどうしたら此世に天を實現することができるのだらう。

戰をやめよ。「見よはらからむつみて共にあるはいかによきかな」私共は相和して助け合はうではないか。男性は長い間の壓迫をやめて、壓迫になれて、いぢけた女性を徐々に日光に近づけて、再びのび〳〵と成長させねばならぬ。女性はそのやさしい涙をもつてすさみきつた男性の胸に純な愛の芽を出してやらねばならぬ。男性は智に於て女性に導き、女性は情に於て男性を淨化せねばならぬ。

不合理な結婚を改良する爲には、まづ家族本位の誤まつた舊思想を退けると同時に、男女青年の敎育に大改革を加へねばならぬ。卽ち男子には職業の爲の專門敎育といふ事以外に、人として紳士としての人格的敎養を與へ、女子には從來よりも少し高等な組織的敎育を與へて、眞の半身を見出すまで獨立自活してゆける丈の職業をもたせねばならぬ。

前節に暗示しておいた如く、女子の經濟的獨立は女性の前途に對する大問題である。今日までの女性が男性の壓迫に堪へてきたのも、多くの女性が今猶陸續として墮落してゆくのも、大抵生活の安定のない爲と云つて差支へないと思ふ。さればこそ多くの妻は泣きれいりに夫に從ひ、多くの未亡人は心ならずも再婚し、多くの薄給な女事務員は生活の爲にやむなく操を賣る、女性に生活の安定を與へる事は男性にとつて不利なるかの如くに見る人もあるけれども眞に貞操の理想を實現せんが爲には缺くべからざる重要な條件である。

學校を出でゝ一定の職業について男女は相互に出來るだけ廣く品位ある交際を續けて、徐ろに眞の半身をさがす。此場合社會的制裁は男女兩方に對して同等に嚴でなければならぬ。一面に於て弱い女性を保護すると同時に、他面男性の野獸的本能を抑へて、どこまでも淸い交際をつゞけさせねばならぬ。

離婚は決して望ましい事ではないが、不合理な結婚の行はれる以上は、或場合に必要である、そして離婚のみに止らず凡ての法律上の規定は必ず男女同等でなければならぬ。

然し世には眞の半身を見出し得ないもの、又かのパウロの如くミケランヂエロの如く、カントの如く、宗敎に藝術に哲學に半身を見出したものは、何も强ひて結婚するにはあたらない。むしろかゝる人は誤つた結婚をすることによつて天より與へられた眞の半身なる宗敎とか藝術とか哲學とかに對する貞操を破ることになるのである。そして社會にとつてもかゝる人の勢力を家庭の瑣事にうばふのは悲しむべき大損失といはねばならぬ。

六、結論

「狐は穴あり、空の鳥は巢あり、されど人の子は枕する所だになし。」と叫んだイエスは此のけがらはしい世の中にあつては孤獨の人であつた。いつはりの世に幻滅の悲哀を感じながら「世の中はかうしたものだ。」とあきらめをつけて自分自身をもその世の中に同化させることもできず、なほも理想の光に憧憬れるものは、せめて自分一個の淸純を求めて孤獨の寂寞を甘受せねばならぬ。長夜の夢からさめた女性の多くは、不倫な男性に屈從するのをこゝろよしとせず、細い腕一本をたよりに苦鬪をしながら獨身生活を送るであらう。而も之れ位の犧牲は、過渡期にある女性の當然なすべき事である。苦鬪の結果として女性の能力と地位は著しく高められて、新時代の一大社會的勢力となるであらう。女性の力によつて淨められた社會にこそ、眞の貞操の理想境は實現せられるのである。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

男女の貞操

二等　慶應大學　西本量一

貞操とは配偶者又は配偶者たる可きものに對する性の尊重のことである。大概の生物は雌雄の兩性に分れて居るが此の性の尊重といふ事は獨り人間の特徴である。因習の久しき遂に之を以て殆んど先天的の特性にしてしまつた。だから人として貞操の重んずべきを知らぬものはない。然も貞操の問題が如何なる社會政策を以つてしても滿足なる解決を與へらるる期なきは性慾は最も强烈なる本能の一つであつて外的壓迫によつて之を抑壓することは不可能なるが故であると思はれる。

□　□　□

然らば古人は何の必要あつて貞操の重んずべきを敎へたか。盜賊が明かに神の斥せる罪惡である如く不倫も又天より敎へられたる罪惡であつて之を放任することは大いに社會の秩序紊り其の善良の風俗を害するからである。之を實際的見　より觀るも不倫は正に共同生活の敵である。即ち人間は家庭を作らなければならない、子女を敎育しなければならない。家庭を作るにしても子女を敎育するにしても男女の間に愛情が交換されなかつたならば到底其目的を達することは出來ない。過つて家庭を破壞すれば延いて社會の破壞となる家庭の完美なくして社外の安穩を期することは出來ない。而して家庭の完美は只愛情によりて得らる。男女の愛情は貞操を重んずるによりて得られると云つても過言ではない。數夫に仕へ又は數婦に接する男女の愛情は分割せられざるを得ない。アンダマン人の間には永久の結婚といふものがない。母が兒を生むや否や父は其の發　任務を捨てゝ去つてしまふ。故に彼等は夫婦協同し、子女の敎養に當る場合に生ずる愛情の敎養といふ　とがない。同樣に一夫多婦が行はれ父道が不確實なるか又は全く知れざる場合には子女に對する男子の愛情といふものが一夫一婦の場合の如く著しく現はれてこない。其上兩親其者の間に於ても一夫多婦は愛情の敎養に於て一夫一婦よりも不便である。下等人種の間に於て愛情の薄弱なるは全く之が爲である。反之最も同情に富める人種は一夫一婦が永い間確立してゐる人種である。夫婦共同の利益を以つて比較的後年まで子女を敎育した種族である。かくして貞操は一夫一婦を要求する。

□　□　□

結婚が單に種族の發展のためにのみ行はるゝものとすれば一夫多婦は之を認むる十分の理由があるとも云へる。然し人間は道德の動物である。良心を有する動物である。道德に照し良心に對して二重三重の結婚は罪惡である。偶然か天意か我が人類は統計上男女によりて切半されてゐる。之は一夫一婦の可能性に對し天の與へたる根據である。

女子が一夫に仕ふ可く二夫に見ゆ可からざることは數千年の習慣によつて殆んど完成せられて居るけれ共男子に對しては全然此の敎がなかつた。姦すべからずとは敎へたけれども二重三重の結婚は之を責めないで來た。現行法に於ける精神も同居の義務は夫に輕くして妻に重しとしてある。然し吾人は之れ大なる矛盾にして不合理なることを悟らなければならない。前述の如く男女　數が相半するに於ては一夫多婦を認むれば同時に一婦多夫も免れ得ない道理である。一夫一婦が善良なる理想であるならば之を實現するは男女共同の義務であ　ればならぬ。男女によりて貞操の價の高低を設くるは矛盾にして不合理なことである。男子に對しかゝる特權(?)を與ふる口實は遂に之を發見することが出來ないであらう。

歴史に見るに一般に未開國に於ては一夫多婦が公然と行はれ文明の程度の高まる程此の風は薄いようである。余は我國上流の士族に國民の木鐸たるべき士が妾を蓄へ賣春婦に接するといふことを聞く度に同胞として恥ぢ入るのである。支那に於ては尙甚しいようであるが何んだか野蠻の遺風のように思はれてならない。然らば何故に古來一夫多婦が認められたかといふに男子は性慾に關しては能動的なるに加へて腕力金力勢力の專有者であつて女は此の態度及力の下に虐げられたものである。而も男子は女子を人間並に取扱つて居ない。女子を人間に分類したるは昔の動物學者の謬見にして女子は單に男子の性慾を滿足する機關であるとは是れ薄かれ厚かれ男子の共通に有する女性觀であらう。恰も女兒が人形を弄ぶが如く多くさん占有して自ら快哉を叫び又他に誇るといふ一種の道樂になつてしまつた。而も社會は之を敢て咎めない。其上女子はかゝる事に興味を有せず其の賴他的なる性質は愈々以つて男子の此の道樂を助長し發達せしめたものである。

然し今日は斯る力の亂用を許さない。如何に力大なりと雖も金力勢大なりと雖も之を[illegible]心、反したる所爲に利用することを許さない。金力腕力勢力によりて女を虐げることは社會の善良　る秩序風俗を紊る野蠻の遺習である。即ち文明の社會より一夫多妻の蠻行は是非とも除去しなければならない。

□　□　□

於是男子の猛省を促がさなければならない。即ち男子の貞操を高唱しなければならない。二十世紀の文明は先づ男子の貞操てふ大生命をなさなければならない。貞操は固より之を强制すべき性質のものでない。貞操は道德である　强制せられたる道德は破裂する危險がある。永久の財產とはならない。如何なる自由を與へられても自ら矩を踰へないといふ域にまで進まなくては眞に生命ある道德ではない。男女の貞操も此の域に進んで欲しいものである。

昔は男女七歲　して席を同ふせしむべからずと敎へられた。儒敎佛敎の影響を受けて東洋に於ては男女の

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

罪惡は最も甚だしい。是も古人が男女の間の紊亂するを惧れての措置とすれば其親切を多とせない理には行かないが其の結果は果して彼等の期待を滿足せしめたであらうか。反之近來社會改良家は古來設けられたる男女間の柵を除去して大いに其の交際を主張し同じ目的に對して全く反對の方法を採らんとして居る。果して何れが是か否か。是れ容易ならぬ問題である。

先づ古來の男女分離策は成功とはいひ得ない數多の證據を殘した異性接近の天性を束縛されて男女共に大なる苦悶があつた、男女を隔離することの甚だしくなつてより男子の間には男色流行し遊女の出現を見るに至りて大いに其風儀を害した。女子は奥深く閉ぢ込められて社外より遠ざかり智識より遠ざかり甚だしく退嬰的な肉體の生あつて精神の生なき人形となつてしまつた。而も男女間の風儀は依然として改まることなく私生兒、情死姦淫等の罪惡は所在に行はれた。

□　□　□

男女をかくすることが即ち性慾を減ずる所以だと思つたのは頗る非科學な誤であつて科學的に云へば隔離すればする程人の性慾は強くなるものである。一には精液の蓄積により二には好奇心の増長により、凡そ男子又は女子ばかり　の集合所に於て例へば初期の殖民營、工場、監獄等は豫想外の淫猥を極め一般の風儀も至つて不作法であるのを見る。かくて男女を分離することにより て風俗を正さんとしたる古人の政は大いに其反對の結果を獲たるの觀がある。尚ほ此の古人の敎を遲奉せんとする社會改良家の一考を殺す可き點である然らば近來唱へらるゝ男女交際論の是否如何。

我が福澤先生は夙に男女同權論を唱へて社會に警告せられたが又男女分離論を非難して「男女肉交の濫なるを防がんがため男女の情交をまでも禁止し以て社界の面を殺風景ならしめた。」と論ぜられた。未開國ならいざ知らず男女共に大いに覺醒したる文明國に於ては決して男女を分離する必要はないように見える。犯さんとするも犯さるゝの恐者なかる可く犯して其結果を知る程今日の人間は打算的である。かゝる危險を慮るよりも**男女交際より生ずる結果を恩ふことが必要なこ**とである。即ち男女相接するの機會を與ふればお互に異性を理解せしめて各々理想の配偶者の選擇を自由にし從つて貞操を守る責任觀念も加はつて來る。然り貞操の濫なるは異性に對して確固たる信用を置いて居ないで異性に對して散漫たる理解をしか有して居ないが爲である。不適當なる結婚をなして一生の悲劇を生むは自己に適する配偶者を選擇するの自由がないからである。遊女が却つて神聖なる戀を解し我國に離婚の數の多きが如きは此の間の消息を語るものではあるまいか。

かくして始め慮られたる危險は除去せられ莫大の收獲を得て男女の交際は二重の利益を認められる次第である。男女交際の利益はそれのみに止まらない。女子の歡心を得んが爲には男子は品行を愼まなければならない。奮闘しなければならない。女子は男子より知識を啓發せられて活氣を帶びて來る。斯くして男女の間の屈儀は大いに改善せられかくして男子の圭角は丸められ人生の潤を豐富にし無味乾燥なりし社會に生命を與ふることが出來る。古來の如く男女隔離せられ單に媒介者により娶合はせられたる時代には如斯自譽の精神は生じないのである。

□　□　□

かく觀じ來れば古來の男女分離主義は其効少なくして害は意想外に多く若し男女を接近せしむるの方策に出づれば前者の恐るる危險は必然の結果として除去せられ前述の如き看過すべからざる數多の好結果を齎すのである。即ち余は男女の交際を是認し之を主張せんとするのである。然し之には相當の準備が必要である

第一には性慾敎育である。古來性慾のことは之を口にすべからずと敎へられ之を口にするは社界の風儀を紊る罪惡であるとせられた、が近來は之を左程に罪惡視せず却つて之に對して研究的態度を採るに至つた。寔にかくある可きことで譬へそれが本能なりとは云へ恰も食物に對して知識が必要である如く性慾も之が智識を忽緒すれば其の危險や恐る可きものがある。

然らば如何にして之が敎育をなす可きか、其の方法を過れば却つて風儀を害するの懼あり。從來我國に於ては學校に於ても家庭に於ても此のことに關して緘口主義を採り一切其智識を授けなかつた反之社會に於ては極めて淫猥なる誤りたる性慾思想を青少年に注入して彼等の性慾思想を卑下してしまつた。外國に於ては已に中學校以上の學生に性慾敎育を施して居るところもあり中には小學校にまでも之を擴張し甚だしきは女兒をして母の產褥に待らしめよとさへ唱ふるものもあると聞く。敎育が人に其の行路を指導するものであるならば性慾に就ても相當の方針を採るのは至當なことであつて又必要なことである。倫理や宗敎が人生の道案內者であるならば之に對して尊嚴なる敎を垂れねばなるまい。故に我が國に於ても學校に於て謹嚴なる態度を以つて之を修身倫理の科目中に加へ幼者の頭腦に淸く高尙に注入しなければならない、勿論貞操に關しても確固たる信念を與へねばならぬ。

男女交際の第二の準備は男女混合敎育である。小學より大學に至る凡ての學校に於て混合敎育を行ふことである。勿論男女の智力の差異によつて多少の困難はあるならんも少く共學校を中心として男女を接近せしむるは最も意義あることと思ふ。

かくして男女をして互に理解せしむるの機會を與ふるに於ては女子は男子の前に男子は女子の前に新しき裝をなして現はれ茲に男女の初對面の挨拶を交換するの歡を得ることと思ふ。

□　□　□

一夫一婦が結婚の理想であることは前述の如しであると雖も是が實現を以つて結婚問題は解決せられたとは云へぬ。少く共我が國に於ては配偶者の選擇に就て大なる戰がある。金のため名譽のため又は子を思ふ親の取越苦勞から配偶者の選擇を全然他人に委すものと本人の意見を重んぜよといふものとの戰がある。何れの主張にも是の反面に否を有する。單なる情愛に基いた結婚よりも理性に基いた結婚が確實であつて間違が少ないと前者は云ふ。結婚は愛である。趣味である。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

打算的の結婚は虛僞である。結婚は當人の結婚であるから當人の意見に基かなければならないと後者はいふ此の點に關しエレン、ケイ女史は次の如く云つて居られる。

相愛せざる者と結婚するのは罪惡である。相愛せざる結婚はしてはならぬ。愛情より自づる結婚に非ざれば家庭を成さず幸福を生せず。

余も此の主義を正當視せんとするものである。頗も心も相知らぬ男女が自巳と心を異にする第三者の判斷によりて娶合はせらるゝとは實に言語同斷の沙汰ではあるまいか。彼等は男女なるが故に結婚せしめられるのである。肉體上の結婚をなすものであつて其結婚には精神が伴つて居ない。かゝる人は譬へ形式上夫婦を形作つたとしても其貞操は犯されたも同然であるといふことが出來る。何となればかゝる人々は女なるが故に又は男なるが故に結婚するのであつて決して特定の人といふことは出來ない、乙の男でも丙の男でもよかつたのである。丁の女でも戊の女でもよかつたのである。彼等はその貞操を輕視したことになる。未知同志の結婚はあまりに人間らしくない。貞操の蹂躙である罪惡である。況んやかの金のために名譽のために賣られて嫁ぐ女子は奴隷である。其の親達は子女の貞操を蹂躙した當の責任者たることを否むことは出來ない。反對者から時々『愛情は結婚してから生ずるものである。』といふ聲を聞かされることがある。何と冒險な云分であらう。若し愛が生じなかつたなら何の顏あつて子女に見えんとするのであらう。結婚後愛を生じた例もあらうが愛を生じないで死れ行く悲劇も隨分あるそれよりも始めから愛の結ばれた男女を結婚せしめる方がどの位安全であつて親切であるか知れない。但し茲に余の所謂愛情は一般の觀念と大いに異る。中には猫や犬の戀の如きを以つて愛情であるといふものがあるかも知れん。是は單に異性なるが故に戀ひ慕ふのであつて自巳の利益のために慕ふのである。余の所謂戀愛も勿論性慾を省くことは出來ないが之と共に趣味の一致し理性の伴ひ互に尊敬の念を失はざる愛が卽ち戀愛である。親子友人の愛は之より性慾を除きたるものなりと云へば余の所謂戀愛は了解出來ると思ふ。此の戀愛に基いた結婚が破鏡の歎を見ることは異數であつて永續的必然性を有して居る。

戀愛し得ざる男女は結婚の資格がないのである。

□　□　□

尙ほ貞操の問題として論ずべく殘されてあるものは未亡人獨身主義及賣笑婦である。

寡婦にして一意亡夫に對する貞節を立てんため爾來一生孤閨を守るは是れ最も望ましきことである。然し一概に夫に殉ぜしむることは出來ない場合がある。例へば生活の動力であつた夫の死又は若くして夫に去られた場合等である。此の如き場合には其の再婚を非難することを控えねばならぬ。然し此の場合果して女子は戀を再びなし得るや否やは吾輩之を知らず。若し再びなし得ざるものならば二夫に仕へし女子は其何れかに虛僞の結婚をしたものでなくてはならない。若し或文學者の云ふが如く戀は何度にてもなし得らるものならば再度共結婚の要件を備へ得るの可能性を有することゝなる、余は此の點に於て決する能はざるも生活上再婚の必要あるは之を認めざるべからずと思ふ。

鰥夫に就ても同じく之を適用することが出來る。

次には獨身主義者である。近來獨身主義者を標榜する向が多いようであるが之も大いに一考する餘地があるようである。彼等は獨身を以つて貞節の權化の如く心得て居るかも知れない。然し貞操なるものは常に配偶者又は配偶者たる可きものを對稱としての謂であつて配偶者を認めないものに貞操は無意義である。中性ならばいざ知らず已に女性たり男性たる以上異性と結合するは天地の法則である。人類の義務である。神は結合せしめんが爲に兩性を對立せしめて居るのである。特別の事情なきに始めより獨身を撰ぶものは人類の義務を回避するものであるとの非難を免れ得ない。知らず獨身を標榜して果して終始し得たるものありや。要は獨身は可能なりや否やである。世には殆んど性慾の缺けたるが如きものなきに非ずといへば强ち不可能なりとも云へないが一般に生活上及性慾上より見て獨身は不可能なるが如し、特に中年に至るまで獨身を守り來つて大いに煩悶する婦人のあることは往々耳にすることである。獨身は人生の畸形である。余は之れを不自然なり不善なりとして排斥するものである。

□　□　□

次には賣笑婦であるが彼等の貞操は已に零である。抑々彼等をして茲に至らしめたるは全く舊來の誤れる道德より將來したるものである。身を賣りて親を養ふは昔から孝行として褒め稱へられた。之が抑々の誤である。女子の人類に對する任務は單に子としての親孝行ばかりではなく人の妻として子の母として重大なる職責を盡さゞければならない運命を有して居る。單に親の爲に個の職責を棒に振り剩へ社會に害毒を流すバチルスとなるといふことは却つて不孝な行爲となるのである。子は親の所有物に非ず。親として子々を犧牲にするの權利なく子として親の犧牲となる義務はない。親の爲に貞操を賣るものは此賣笑婦のみに非ることは前にも述べた。共に其貞操蹂躪の責任は一部親の負擔に歸せなければならないといふことを重ねて大呼せん。

男女の貞操問題をかく觀じ來るときは其の解決には社會の制度の大革命をやらなければならない。それには熱心なる社會改良家の大なる努力も勿論必要ではあるが茲にもつと根本的要件がある。それは卽ち男女の覺醒である。

現在は頻りに女性の覺醒を促がして居るようであるが女性は勿論男性にも幾人覺めたものがあるだらう。若し男子が眞に醒めて居たとすれば女子に斯くまでに蹂躙せられ虐待されはしなかつたであらう。人間は今や智識や物質の殼を作つて眠つて居る。自然は美しく平和で且つ崇高ではないか。そして人間の溺り果てた眠れる心に樣々な暗示を與へて居るではないか。

自然に歸れ！自然に歸れ！自然に歸つて天地の根本精神に觸れ天地の公道に從へよ一夫一婦は天の定めた法則である男女は同樣である男女は接近すべき天性を有す。子は親より獨立したものである。而も余は天道の押賣はしない。眞に醒めよ！眞に人間が一度堅い深い暗い殼を破碎して發芽するとき、目醒むるとき、凡ての人生の問題は容易に解決することが出來る（二月二十七日稿）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

天鼓の響

事直線に(步行容易)數丁亦私娼を專問とすべき家附近に點在す、最も同聯隊のみにあらざれ共、特に甚だしきを以つてこゝに特記し當局の反省を促さんと欲す。

國家の基をなし富國强兵の母を以つて任じておる農家に私娼蔓延し、一村の藝妓數五六十名より百名位迄の町村も尠しからず。亦村内に公娼設立運動の起りおるものは、亦健實なる業務に從事すべき農村青年にして、醜業婦にまよひ毒酒に酔ふて、家業たる父祖傳來の業務を拋擲し、立派なる遊蕩兒となつて、鷄犬相啼きて炊煙はなくあがる、はなやかなりし農村をして生活難に陷らしめ、風矯破者となつて吾人の嫉むべき人間となる續出するは述上の事實に徵すれば決して不思議の現象に非ざる可きを思ふ。

加も此秋公娼の如き遊制が大正の現今、しかし續々と擴張せられんとしつゝあるは痛嘆に堪えざる次第なり。私も弱輩淺學の身も省り見ず廓清の爲ならんには粉骨碎身の勞を厭はない決心なれば賢明なる各地の廓清會員の皆樣、各地に起つて道德問題の爲、廓清問題の爲に充分の御奮闘あらん事を祈る。七・七・二八・記

不良少年輩出の理由

長野　足助治平

現代の社會文明が恰も白駒のの戸際を過ぐるの勢ひを以つて進みつゝある秋に際し、獨り風敎問題殊に男女問題の甚だ振はざるは奈何なる理由にや。吾人は其振はざるを觀てさへ大に慷慨の情に堪えず、然るに益々退步墮落殆ご其の低止する處を知るに苦しむに於て尙一層の痛憤を感ぜずんばあらず。

抑も此の弊の因つて起る根本を研究すれば、其處には種々雜多なる事情纒綿して亂麻の如きものなきを保せずと雖も、文明てふ語は獨り物質のみを指稱せるものに非ず。精神界も亦夫れ相應に進まざる可からざるに、今日の狀態は此の極めて肝腎なる精神界を殆ご省みる者さへなき奇觀を呈し居れり。吾人は先づ口に國家の爲め、或は人道の爲めと叫ぶ其魁は、此風敎問題を第一位に置かざる可からざるは論なき處也。

大方會員諸君は先月號に於て宮田先生の「學生なき大阪」を閱讀せられしならん。余は嘗て大阪市街に足を踏み入れたる事あるを以て其事實を知れり「學生なき大阪」は職工多き大阪なり、而して其多くの職は工隨所に白晝會飲し放歌しつゝあるを見受くるに至つて風敎の紊亂其數に一驚せり。然共右の事實は獨り大阪のみに非らず轉じて九州地方を觀るも八幡、下關、若松等皆當局者及會員の勉勵に依り、或程度までは私娼蔓延防止の跡を認むと雖も未だ廓清の餘地充分あり。

特に西國の溫泉國たる別府の如きは實に言語同斷にして六尺內外の一般街路に點々と存在する料理店風の家內に脂粉の白首ありて實に寒心に堪えない行を爲しつゝあり、亦七十二聯隊(大分市は)公娼遊廓地と離るゝ

本誌を受けとつて

四那須野驛前　藤田豊

廓清會長足下

私は本年十七才になる者です三ヶ月前より本誌を愛讀致し居りました、都合本月限り中止する考へでありましたが、有益に付續いて愛讀します。

私の地は花柳界の大いのは郡は愚か縣下第一だと云はれますそして多くの青年は知らず知らず身を死にさせて居りますそれは本誌を讀んでから此の小さな、私にも解りました。

私はそれを見るにつけ獨り今の若者の行動は一時的だと思ひましたそして云ふのには、(若い時は二度とない、年老いては先がない)と大いに花柳界に入るのを得意がつて居ります、どうかしてこれを止めさせて、立派な青年となり美しい會を形式でなく眞實の會としたいと思つて居ります。花柳界に入る人が青年會員でないからと云つてはいけないから會員でなくともそうして見たいと思ひ今これを書いたのです(六月十六日)

濱松演説會の後に

豊橋　木藤冷劍

一昨日は御多忙中にも拘はらず御面會被下且島田先生にも御紹介被下身にあまる光榮と感泣致し飛び立つ計りの嬉しさを覺え一度御拜顏の榮をと數年來より宿望漸やく遂げ先生にも御拜顏の機を得て大に勵され申候、會場演武館に於て先生の公娼廢止論島田會長の「反省と警告」共に多大の教訓を得申候、濱松驛頭にて先生とお別れ致し、私は次の便列車にて早朝豊橋へ到着申候、濱松はコーツ博士の御盡力にてかくも〃意想外〃に盛大滿場立錐の餘地なき入場と、同地會員諸賢の御奮闘にてなるかゝる演說會に私は臨みし事を光榮と思ひ居り候、一度御暇勞々閑暇を利用して上京仕り度希望に有之候、御面會のせつ改めて御厚禮萬々縷述仕る可先づは取り敢ず御禮まで申述候、なほ私は御目にかゝらない前は先生は五十の坂を越へた武骨な漢學者風の御人とのみ思ひ居り候、御目にかゝつて見ると金ブチ眼鏡に洋裝の立派な當世式の紳士なのと、思つたより御年の若いのは意外に思ひました、夫れと先生の元氣よく愛嬌ある應接振りにも、意外に思ひまして、私は瘠形の漢學者風の方とのみ思ふてゐました、駄評あしからず。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

編輯の後

□隨分手を更へ品を替へ、凡百の手段方法を講じた筈の米價調節令とやらも、現在では眞實の骨折り損の足勞儲けといふ情けない結果に了つて居る狀態であるがそれとも政府當局者が們々眞面目に考慮した上の事であるか何とかは頗る疑問であつて、寧ろロイ〳〵連の手前餘儀ない義理一偏の空文を粘上げたものでは無かつたらうか。今にして考へて見ると何だか其麼魂膽があるやうに思はれてならない。

□現在我國の産米高は一ケ年三千四百萬石で、是れを其消費高に比較すると殆ど過不足なしといふ狀態であるが、其內の四百萬石は酒の爲めに消費されて了ふので、差引夫れ丈が外米の輸入を見るといふ。併し之れは平年作の割合であるから、萬一天災にでも見舞はれたら最後、否が應でも其不足だけを輸入せなければならないといふ心細い次第にあるさうナ。加之に年々都會が膨脹するに引替へ、地方農村の荒廢して行く狀態は全く目も當てられぬ程であるから、勢ひ國內の自給自足の均衡が採れなくなり、果ては圓に二升臺といふ昇騰を見るに至つたとのであるといふ。

□細かな事實問題は別として、假りに然ういふ傾向だけでも或一部にあるとすれば、それこそ容易ならぬ大問題であつて、末流を堰めんとする汗ミドロの當局者こそ洵に御苦勞千萬な話である。此際當局者は僅か十萬石やそこらの買占問題抔は眼下に睨下して、其本流に遡る事に留意したら何うかといふ者がある。それでは一體其本流とは何ぞ。曰く地方農村の振興!!!

□此間高島米峰先生から農村の娛樂といふことに就てお話しを伺つたが、實際地方農村の青年と都會の夫れとを對照すると全く氣の毒に堪へぬものがある。といふのは、彼の激務に從事して居乍ら、娛樂と云へば僅に一年二回の盆と正月だけ、加も頑迷なる知縣を戴く或地方抔では其お門違ひの風教を擔ぎ出されて、絕體的に之れを禁じられた處もあるさうであるから、一年を通じての樂は只正月あるのみ。處が其正月さへも必ず新曆を用ふ可しと嚴達した地方もあるといふから、今や地方農村の青年等は手も足も出なくなつて、大切な收穫期を頓着しない役人には全く困ると愚痴を滾して居るとか。

□如斯地方青年が遂に都會病に惱まされ、歡樂に醉ふ都會人の生活を仰望する結果、農村は荒廢して行くのであるから、今の內何とか早く之れが救濟の道を講じなければならぬ。是れは獨り彼等の爲め許りではなく米價の昇騰に困む都會の人も又共に採る可き處の國家に對する義務ではなからうか。

□隨分物事の明つた人でゝ、未だに娼妓の自由廢業を疑つて居るものが多いのは何うした譯か、彼等の多くは金錢で身賣りするものと感違ひをして居るやうであるが、如何に金の世の中とは謂へ、石が流れて木の葉が沈む時代が來たら左も有く、人が權利の主體たるの間は幾萬の資金を以つてしても賣買する事は出來るものでないといふ、其麼些細な事すら判らずに、天下國家を論ずるのであるから、全く現在の智者なる者の風教觀念が如何に淺薄であるかゞ伺はれて寒心に堪へないと嘆息して居た一會員があつた。

□東京市の淺草公園と云へば、其影には幾多の秘密が潛はれてゐて常に人心を脅やかすやうに思はれるが、其秘密の多い彼の附近には日每夜每に、樣々な新しい罪科が續出してゐるといふ噂を耳にした事がある。話は少しく古いが現在も尙其の事實は續行されて居るのであらうから、決して過去にあつた一の小出來事では無い。夫れは斯うである。或る商店に通勤する店員が一夜淺草公園の某劇場に入つて芝居を見て居ると、其隣席に二十二三の婦人が同じく腰を下ろして見て居たさうだが、漸次男の傍に寄添つて遂に同席となり、さう斯ふする內一口二言が、所謂袖摺り合ふも多少の緣となつて、芝居の合間々々に種々な話さへも交はすやうになつた。其話に依ると女は妾であるらしく、今夜は旦那の來ない晩だから是非遊んで行つて吳れといふので、虜になつた男は直樣件の女と同道、公園裏の途ある一妾宅に連れられて入ると二階へ通されて至らざる無き款待を受け、女の出す浴衣と着更へ抔して遊治郞振りを發揮して居ると、突然老下女が階下より只今旦那がお見えになりました」といふ注進に仰天し手に持つた盃を投げ出し遽てゝ、女の教へるが儘に三階傳へに逃げ延びてホツと一息付いたが正氣に返つて見ると自分の着て居た衣服は勿論、金入から時計迄全部置去りにして、極めて粗末な浴衣を着て居る今氣が付いた時は最う遲かつた、件の如き事情であるから豈夫取替へにも行かれぬし、何うする事も出來ずに可惜其儘になつて了つたさうであるが、後で其男が調べて見たら、女といふのは有名な淫婦で常に公園附近を徘徊して、此手段を用ゐてゐる女であつたといふ。斯くして風教は益々壞れんとして居る。會員諸氏の奮起を望むや切（小林生）

□先日總會席上での話に、安部先生は、早稻田大學の豫科の試驗問題に『英國及日本に於ける救世軍の社會的活動に就て知れる處を記せ』といふ題を出した。さ云れたので、それは奇拔だと、一同頤を抱へる。安部先生も笑つて處が大部分は日本の救世軍は山室軍平氏の率ゆる處でと書いてゐるが、中に一人、向軍治氏が率ゐてゐると書いてゐたものがあつた、と云はれたので向君が大將は奇拔だと又大笑ひ。（伊藤生）

大正七年八月一日印刷（每月一回一日發行）
大正七年八月一日發行　一部　定價金十錢

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　小石川區大塚窪町一番地　久保民生
印刷所　京橋區弓町十二番地　千代田印刷株式會社
發行所　神田區猿樂町十番地　廓淸會發行所
電話本局四〇三五番
振替東京二七〇七二番

If she is to be put out of business, if she is to be hounded out of hamlet and village and city, if she is to become more of an outcast than ever, what is to become of her? No more practical or vital question can confront us this afternoon.

"In the first place, I can only mention the fact that driving her out is but the first step in the great scheme of the moral regeneration of society. Such a consistent and persistent policy of repression must be coupled with the moral, physical and sex education of our youth; with the never ceasing campaign for better social and economic conditions for girls and women; with the exaltation of a single standard of morality, the destruction of the double standard and the myth of the so-called sexual necessity; with the execration of the male offender equally with the female derelict. As a result we shall eventually see a vast reduction in the number of these women. All these avenues of attack upon the social evil must be diligently followed up and we have no better and able leader in our country today than the American Social Hygiene Association. It is under the inspiration and assistance of the leaders of this association, as well as the earnest coöperation of the Notional Council of Defense and the great American Medical Association that the War Department is pursuing its relentless policy of fighting vice to protect our soldiers. You, ladies, can do nothing more helpful in this crusade than to associate yourselves as active members of the San Antonio branch of the Texas Social Hygiene Association which will shortly be organized here, by the express wish of the War Department and the National Council of Defense.

"In the second place, there are two things to do with the public woman. First, reform and restore her. Now that may sound foolish to those who believe the old saying, 'Once a sinner always a sinner.' That half-truth or half-falsehood has forever been exploded by the valid records of innumerable reformations of character and restorations to society by the numerous Florence Crittenton Missions, the Salvation Army Rescue Homes and many other religious and philanthropic institutions which have for many years sought these lost sheep to save them. The possibility of such salvation must forever be admitted as we recall the historic Christ and Mary Magdalene."

What Can be Dhne?

Finally, what about the confirmed and incorrigible? What can be done with her? Shall she be eternally driven from pillar to post, a Phariah, an Ishmaelite? This class is practically irredeemable. 4 — 798
Many of them are hopelessly diseased, morally and physically. Many of them are alcoholic and drug addicts. Many of them are morons—mental defectives; they have the mentality and moral irresponsibilty of a child of 7, 8 or 9 years of age.

"Th harbor this class in our city is to protect and perpetuate a cesspool of moral iniquity and physical contagion. It would not be as criminal to protect and foster an equal number of individuals suffering with smallpox, leprosy, typhus fever and diphtheria, because these destroy only the body, while the others blast the character and destroy the soul as well as the body. Is it not equally criminal to drive them out to infest and infect our neighbors? Not so we hande our other infectious cases, but we quarantine them and treat them at pnblic expense until they are no longer a source of danger to the community. Logically I am convinced we shall be driven to the same methods in the handling of these women. There is but one thing to do with the incorrigible. I am firmly persuaded that as the light of experience more and more illuminates this problem we shall see that the State must take these poor derelicts under her care as her wards. The burden is too great for single communities and the problem is one of State concern. The State must establish and maintain institutions for the restraint, treatment and industrial training and education of these defective and destructive social agents. If haply there be some who can and will respond, who can and will make good, let them be restored to a useful and happy life in society. If not, let them be cared for in these institutions until death brings them release. I affirm that any argument which holds good for our institutions for the restraint and treatment of the insane or incorrigible criminals, for their own good and for the protection of society, is equally valid for an institution for incorrigible public women. If we are ever to make a success of our modern crusade against this, I am satisfied that such a scheme of State care must be included. I believe, too, that the knowledge of such a prospect ahead would be a powerful deterrent to any woman who still has enough judgment and will power left to survey her own life, such a prospect would tremendously thin out the ranks of the professionals."

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

THE FIGHT PURITY

Published monthly at the Head Office of the Purity Society,
No. 10, Omote Sarugaku Cho, Kanda, Tokyo.

Vol. VIII August 1918 No. 8.

English Department Edited by David S. Spencer.

Among the great questions which arise in the effort to make society morally safe is the problem of what to do with the prostitute. She cannot be killed, in many cases she cannot be reformed, and hence let her loose in the community, no matter what police and social restrictions may be laid upon her, she still remains a danger to the young of both sexes. Dr. M. J. Bleim, of San Antonio, Texas, has delivered an address on this subject which all thcughtful workers for purity should read.

"WHERE SHALL WE DRIVE THE PROSTITUTE?"

Dr. M. J. Bliem, of San Antonio, makes stirring appeal for their salvation

Before a body of San Antonio women who are taking an active part in the clean-up campaign there, Dr. M. J. Bliem, of that city, recently made an address in the ballroom of the Gunter Hotel on "the disposition of the prostitute as an economic issue." He appealed for wise and sane effoits in attempting to save or dispose of the fallen woman. The following is an excerpt from his speech.

"Anyone who has read the article on prostitution in the latest edition of the Encyclopedia Britannia will get a graphic view of this world-old problem and the repeated drastic and futile efforts which have been made to crush it out of its baleful existence. Alas, in vain, for the problem is with us to-day as with our fathers, and it seems, if possible, in a form more intensified than ever. For to the ancient demoralization of the individual and family life is to be added the ever-increasing degeneracy through the rapidly growing peril of the diseases.

"Small wonder, then, that some of the best minds and purest hearts of our modern day have given earnest study to this great social question. Undeterred by the failures of the past they set themselves the task of grappling anew with an evil, which, if unchecked, threatens the ultimate destruction of modern civilization. So many seemingly impossible things have become possible through the genius of man that even here we do not despair of a final solution. In an antivice campaign, such as we are experiencing in our city at the present time, many questions are asked by inquiring minds which are hard to answer and to some of which the answer has not yet been worked out. The whole subject is so complex, presents so many facts and angles that it would be impossible to touch upon them all in this brief address. May I not venture, however, to attempt an answer to one question which indeed presents a puzzle to many of sympathetic heart? At that memorable meeting in the Chamber of Commerce a week since, this question was repeatedly propounded by a prominent physician and as frequently echoed by the accused officials 'Where shall we drive these women?'

Man's Inhumanity

"Their argument is about like this: They are human; they have to live; they can live only by playing their traffic; wherever they go they are still the same; other cantonment cities are equally closed against them; it is unbrotherly and immoral to force them upon our smaller neighboring cities and rural communities, indeed, the movement is general in most American cities to drive them out. Where shall they go? What can they do? What will become of the poor things, as they, bearing the sins of society on their frail shoulders, become the scrape-goats of our sexual immorality? Paraphrasing the poet's exclamation we may well declare that 'Man's inhumanity to woman makes countless thousands mourn.'

"The movement against this traffic as a commercial institution and the woman as a destructive social agent, is, under the forced conditions of the war and the powerful authority of the Government, rapidly becoming National in its scope.

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

君が腦神經病は治る者こ信ぜよ

而して……

腦、神經病特効藥

健腦丸を用ゐよ!!!

健腦丸の効果は世既に定評あり。

主効

□腦充血 □耳鳴
□腦膜炎 □頭痛
□神經痛 □眩暈
□逆上症 □健忘
□卒中 □便祕
□中風 □癲癇

四回分	金二拾錢
半週分	金四十錢
一週分	金七十錢
二週分	金一圓卅錢
三週分	金一圓八拾錢
五週分	金二圓八十錢
拾週分	金五圓

本舗 大阪 東京 丹平商會藥房

特長

▲健腦丸を少量宛常用せば、逆上を引下げ、便通をよくし、恐る可き腦充血を快治し、中風卒中を未發に防ぎ、記臆力の増進を促す特効あり。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY